

4 市民懇談会要点録

出席者

市民17名

職員

図書館長、企画運営係長、企画運営係2名、東寺方図書館長

.....

質問及び意見

市民：41頁の真ん中網掛けに、地域館については図書館機能の全域サービスが担保できるように地域にある身近な施設と連携し柔軟な対応をするとある。地域館は残るという計画と捉えて良いか。

館長：貸出と返却ができて、予約の本が受け取れる、新聞雑誌や一定の蔵書も必要と記載。それが地域館という名称か、分室という名称か、その辺はまだ決まっていない。

市民：名称はいいが、4館残す計画でそれを行動プログラムに反映していくととって大丈夫か。

館長：蔵書もあって本も借りる機能は必要だということはある。ただ、個々の機能の状況によってやはり違う。それについては行動プログラムの更新の中で検討していく。

市民：図書館が必要であるということはこの計画でうたって、それを行動プログラムに反映していくということか。

館長：そう。

市民：10頁の表3の職員体制で、平成26年度版の「多摩市の図書館」からの資料とのこと。平成25年度の「多摩市の図書館」では、常勤職員は38名、再任用職員が5名、再雇用職員が1名、嘱託職員31名、非常勤一般職が46名、合計121名の体制とある。今回はこの合計で99.2人という数字になっている。非常勤一般職は年間1500時間を一人として換算をした結果とあるが、実際に非常勤一般職員は46名いることは事実か。

もう一つ、非常勤一般職員の46名は年間4427万円の経費がかかっていると聞いている。この担い手の状況の中では費用がまったく記載されていない。それぞれ経費がいったいいくらかかっているのか載せるべきではないのか。また唐木田図書館についても、一部業務委託でスタッフ9人、年間3000万と聞いている。きちっと記載すべきではないか。

館長：一点目の質問で、26年度の多摩市の図書館から、非常勤一般職の方の載せ方を変えている。なぜかというと、一人が働く時間数の大小に幅が大きいから。そのため、1500時間を一人として換算したほうが実働の人数が分かりやすいということで変更。記憶だが、40数名は配属されている。

二点目の費用については、人件費の課題にも関連するので、検討する。

市民：内容の質問ではないが、計画の策定は昨年度までが延びたとのことだが、今年の12月までなのか、来年の3月のことなのか。

館長：2014年の4月から2015年の3月までの予定が1年延びたので、今年の3月までということ。

市民：1月末にかけて、7回市民懇談会をやって、パブリックコメント集めて、それから教育委員会にかけて、2ヶ月くらいで1年以上決められなかったことを決めるのか。

館長：昨年度1年間かけて決められなかったことを、今年度1年検討してきた。

市民：こうやって地域のコメントを集めて、それをあと2ヶ月で決めることができるのか。

館長：そのように考えているが、ご意見によって検討したい。今のところ伸びることは考えていない。

市民：それまでに行動プログラムを決定するという事か。

館長：行動プログラムはこれらを踏まえてまた来年度も検討される。

市民：この計画は行動プログラムによると書かれている。

館長：行動プログラムが具体的な取り組み案を示した。それを踏まえてこの計画を検討してきた。今度は教育委員会としてはこう考えるというのをまた行動プログラムで検討する認識。

市民：この計画は、多摩市の図書館がこれまで築いてきたものを、地域館は基本的に廃止と変更するもの。それに対して、約1万5千人の住民からの署名という形で意見が出た。策定委員会の検討の中で、市民の声はどのような風に検討されたのか。

館長：策定委員会の中で施設については検討ができない。それについては行動プログラムの中で引き続き検討していく。

市民：市民の声1万5千の署名にこめられた意見は、検討していないということか。

館長：ご意見を踏まえて、例えば蔵書も必要だということなどを検討している。策定委員会の所掌事項には、公共施設の存続を検討することは含まれていない。図書館の機能の範囲での検討に留めている。

市民：市民の声は地域館を残す存続させてほしいという声だったが、要するに検討しなかったということか。

館長：声は受け止めている。個々の策定委員会のメンバーも、教育委員会の委員もそういった声は受け止めている。

市民：今の質問に関連。図書館の機能というのは施設とそれから中のソフト、そのための人件費、人と本を結び付ける機能だと思う。公立の図書館として機能していくには、やはり施設はないとできない。図書館の目指す再構築のイメージとあるが、今まで7館の図書館網でやってきたネットワークが、4館減らされて出先機関にちょっと子どもの本を置いて、図書館員が配置されずNPOとか別の組織、それも図書館としてのNPOをとということではなくて地域でボランティアかなにかでということがイメージ。今までの体制はとらないと言うことか。地域館としての公務員としての人員配置がなくなるということか。

館長：施設の概要も人員配置が無くなるということも決まっていない。

市民：決まっていなのなら、何のための読書活動振興計画なのか。これでイメージする未来というのは、本当に読書活動が振興されると思うのか。

市民：5年以内に本館を作るとはどこにも書いてないし、財源の裏づけも無いし場所も決まっていない。それで地域だけ削るとある。

市民：ICTの活用というところで、学校図書館と連携できる図書館コンピュータシステムを導入しているとあるが、実働しているのか。

館長：図書館システムのデータベースに学校図書館の本も一緒に登録している。その中でデータは分かれている。今までは、学校図書館ごとにパソコン1台で蔵書管理をしていた。今はネットワーク化されていて、その学校の本も分かるし、市立図書館の本も検索できる。

市民：市民が検索できるのか。

館長：市民ではなくて、学校図書館の司書。

市民：学校図書館のことをここで言及する意味というのが良く分からない。学校は学校で教育目的があってやられているはずなので、教育優先にしたほうがいいと思う。学校図書館については独自の教育機能があるので、読書活動推進全体としては尊重するに留めたほうがいい。

館長：学校図書館と市立図書館とがネットワークできていてデータベースも連携できるようになっている。例えば調べ学習用の本などを、市立図書館で何セットか用意してバックアップして連携し、学校図書館司書と図書館の司書とも連携をして、いろいろ情報共有とか高めあうようなことも必要。学校図書館を一般に開

放するというのは、今は難しいと考えている。

市民：ネットワークで、学校図書館が全部市立図書館のようになると読み取られるので、誤解される可能性がある。

市民：今まで出来なかったことについてやって行きたいとのことだが、今までの中でもやれてきたことはあるのでは。地域資料を提供していくとか、市民や地域に役立つ図書館としての機能を拡充していくとか。今の体制の中で、どうしてできないのか。子どもへのサービスの充実も、今まで市内の文庫連絡会とタイアップしながら、子どもの読書活動はものすごくやってきたと思う。以前、読書会として集団貸し出しをし、10人ぐらいのグループで読書会ができた。そういうこともやれば読書活動は盛んになっていくと思う。それから、読書会の場所を提供するだけでも読書振興になると思う。人件費は高い、職員ももっと減らさなければというが、図書館、資料も大事だと思うが、人が大事だと思う。系統的に館長がそういうものを積み上げていくようなシステムを努力してくれば、職員体制はその中でできてきたのではないかと思う。館長も、3年とか2年とか5年とかでどんどん代わっている。そういう体制の中ではなかなか育っていかない状況があったと思う。正職員を減らしてきて、専門職が育ってきてない。その中で唐木田図書館も民間に委託するようになったと思う。そういう負の発展があったと思う。これからは系統的に、頑張っていたら7館体制でやっていけると思う。

市民：それに関連して。職員体制で、今の常勤の職員の方には他の部署で病んで、図書館の業務に移されたというのをかなり聞いている。今までの教育委員会というのは、司書を、専門職を育てるという感覚がなくて、職員を交代で回らせる、場当たりの職員政策だったと思う。司書を含めた本当の専門職を、系統的に育てるところを教育委員会は今まで何をやってきたのかという反省がここにかかれてない。多摩市のそういった無責任体制が、今日の図書館行政の混乱を招いている。調布市ではもう長年市長と教育長と図書館長が、中央図書館プラス11館の図書館体制を営々と築いて今日に至っている。これに対してやっぱり教育委員会は反省していただきたい。

市民：3つある。ひとつは繰り返したが、学校図書館とのネットワークというのは、学校教育の専門の図書館の重要性というのは誤解されないように書き込んでおいてほしい。

それからもうひとつは、最初の趣旨の2のところ、地域課題の解決に役立つ必要がなぜあるのか。誰が地域課題を見定めるか。図書館の良さというのは、誘導的にならないで知る権利を保障すること。国の政策はとしてやっているが、多摩市は読書活動推進では書かないで欲しい。

それから三つ目、今の図書館基本方針で、誰でもいつでもどこでもという形で地域の図書館を大事にする形でやっていた。40頁に分散から集中へという形で書かれてしまっている。本館を大事にする事は大事だと思うが、分散から集中へといえばやはりなくしていく方向になる。地域館を大事にするということをもむしろ出して、新しい多摩市独自の読書活動推進という形で、国の政策とは違う、国の政策をもっと他の方向に向けるぐらいの勢いで、提案して欲しい。

市民：東寺方を良く使っている。非常に落ち着いた雰囲気で大変ありがたい。地域にたくさん建売住宅もでき、新しくこられた方にどうしてここに引っ越してきたのかと聞くと、図書館があるからという人が多い。12月の市議会で東寺方のこの複合館についての質問に、とにかく老朽化という風に言われた。14頁にも施設の老朽化とある。老朽化だったら新しくすればいい。ここは昭和56年開館。多摩市の公共施設を表にまとめた。ここより古い施設でも存続がたくさんある。そこが存続なのにどうしてここが老朽化で壊すのか。納得いかない。ここの14頁の老朽化の項目をはずして欲しい。市役所など44年、それでも存続するという。

いろんな方から意見を聞いているが、やっぱり近くにあってすごくいいという。例えば、子どもに対して、1.0にしたいと数値目標を言われた。ここは児童館があり、子どもは利用するし絶好の施設。これを取り

払ったら数値下がってしまう。それから52頁、高齢になって図書館に来られなくなる方々のニーズがないか考える必要があるとある。高齢になって図書館に来られなくなる方々は、ここがなくなったら、ますます多くなる。夏、ここに2週間くらい来たが、年寄り多い。ここに通っている年寄りはここなくなったらどこに行くのか。3館にまでいけるかどうか。小さい子どももそう。東寺方小も利用している。30頁に子どもへのサービスいろいろあるが、ここがなくなると二小は関戸に行かざるを得ず、すごく遠くなる。子どもに読書をと書いてあること、目標とかなり乖離していて基本的には振興になるのか。例えば41頁の、地域館については図書館機能の全域サービスが担保できるように地域にある身近な施設と連携し、柔軟な対応をしていきますとあるが、全域サービスを担保する、そのためにはここをなくさないことが唯一の方策。年寄りのために新聞雑誌を置き、子どものために絵本とかを置く、その程度でお茶を濁してあとはその貸出機能だけを残すみたいな気がしてならない。この地域で、ここの機能をぜひ残していただきたい。老朽化と言われているが、昭和56年でまだ35,6年しかたっていない。一級建築士に聞いたが、鉄筋コンクリートでそれで老朽化はおかしいという話。ぜひ残していただきたい。

市民：多摩市が今掲げているスマートウェルネスシティというのがある。すべての市民が健康で仕合せである都市の形と理解している。自動車に頼らず自分の足で歩いているような公共機関にいける、図書館やら市役所やら、郵便局やら、そういうところに自分の足で健康に行けるようなのもそういうのも含まれているような。ここの図書館が廃止されて、関戸に行くとなると、私が例えば80歳とかになったとしたら実際に歩いていけるのかなっていうのがある。小さい子を一人で行かせるのも無理、お年寄りも段々行けなくなると思う。歩いてそういうところに行けるようにするためには、やはり各地域にそういう図書館の機能を持たせていたほうがいいのではないかと思う。スマートウェルネスシティとこの計画というのとは逆行しているのではないかと感じる。

市民：2点ほど申し上げたい。今度新しい計画を見直していく中で、正規の職員の方で司書の資格を持っている方が約5割で、半分いない。これを5年間の間に、正規の職員、再任用の職員の方も含めて、6割とか7割とかそれくらいに司書の資格を取得するという風に具体的な数値目標を掲げるべきと思う。図書館の仕事に携わる職員の方は、対人関係がうまくいなくて、という方が多い。きちんと市民に公開をして、市民の審判を、指摘を受けるくらいの方角に持って行っていただきたい。

それからもう一点。8頁の図書館の利用状況ということで、個人貸出で、なくそうとしている地域図書館の全部をトータルすると約3割。この3割が一気になくなるというときに、責任を持ってその30%の実績をクリアできるか。おそらく無理だろうと思う。この東寺方図書館が1千59万円4人の嘱託職員でまかっている。かたや唐木田のほうは年間3千万の費用をかけて9人体制でやっている。職員体制と経費を考えていくとまだまだ十分改善の余地がある。いきなり4館を一気になくすという方向ではなくて、まず、現状をどうしたら維持できるか知恵を吸い上げるべき。その上で、どうしても夕張みたいに財政破綻してどうしようもない、ということで初めて市民の方をお願いをするというのが筋。しかしまだ、一般会計も500億の予算を抱えている多摩市はまだ財政破綻には至っていない。この5年10年磐石。地方消費税の交付金は、この1年間で34億も入っている。消費税が10%になったとき国からの配当金は40億になろうとしている。それでお金が足りないと思ったら、多摩市政、市民の方を向いているとは私は思えない。その辺はきちっと市長にあるいは教育長に持ち帰って、もう一度再検討していただきたい。

市民：3頁の行動プログラムで、なぜ地域に密着している地域図書館が狙われたか。見直し方針の中には、大規模公共施設についての見直しは何もない。今後10年間で、パルテノン多摩は何十億、毎年3億か4億か赤字で穴埋めして、10年間で100億たぶん超えるかもしれない。ただ図書館だけクローズアップして狙い撃ち。弱いものいじめだなど思う。ここの11頁、市民から見た図書館、これも非常に作為的。図書館の認知度はパルテノン多摩に次ぐとある。認知度は誰でも一番パルテノン多摩は分かる。だけど、実際

にどれだけの多くの人がどの施設を利用しているかということ、市役所はもちろん1番。その次が図書館。
それをここに書くべき

館長：利用したことのある施設に書いてある。

市民：46頁のこの表で、上の表では黒い。ということは多く利用しているということ。それで間違いはないか。

館長：上が7館と1分室全館のもの。

市民：全域サービスの説明も、7館の方が市民がたくさん利用できると書いてあると思う。小学校に通う児童は主な移動手段が徒歩であるため、やはり自宅に近い図書館を利用していることがわかりますと書いてある。これは大事なこと。近くにあるから小さい子どもたちも行ける。それは年寄りもそう。今日、自治会の方は、会議があって出られないということで一人も出てないが、みんな近いから行くといっている。それがなくなって行かなくなったらみんな病気になる。こんな楽しいところをつぶされたら年寄りは早く病気になって医療費が上がって、税金が上がっていいことないという風に言っています。近いところというのが第一の条件ではないかと思う。

それと、図書館の目標が、貸し出ということをすごく軽視されているような気がする。目的がないと図書館が使えないような、調べなければだめとか、そういう文面をすごく感じる。多くの人たちは図書館で本に触れて本を見て本を探して読んで、それで新聞を読んだり、そのことがすごく楽しいということだと思う。そういう楽しいという気持ちはすごく生きる意欲に繋がると思う。それから20代ぐらいの方たちは利用度が少ないというが、対策はあるが、分析はちょっと分からない。なんで少ないのかということをはっきりしないで対策をとるとするのは、方向を誤ったらすごく大変なことになると思う。全体で、分析というのがすごく少ない。対策だけは出ている。どうしてその年代が少ないのか、そういうことも含めて検討していただいた方がいいと思う。これで見るとはっきりと7館であることが多摩市全体の人たちが喜ぶことじゃないかなと思うので、もし残すとしたらどういう方法があるのかということを検討していただきたいと思う。

市民：多摩市の図書館の良いところは、本が回転していて貸し出しがすごく順調に出ているというところ。そこに自信を持って欲しい。貸し出しというのは、図書館の設置及び運営上の望ましい基準の中でも、一番大切な基準になっていると思う。そこに重点を置くということは今までの歴史の中でまったく間違っていないと思う。貸出が活発に行われているというのは、文庫活動をしている人とかいろんな方の協力もあったと思う。その中で育まれてきている市民の読書の層の厚さっていうのがあると思う。それを今後4館なくしていったら減ることになるし、減らしていった中で育った子どもたちがどういう環境の中で生きていくのか想像していただきたいと思う。ESDの持続可能な社会作りということを考えているのであれば、その子どもたちが大人になったときの2050年にはどういう大人になるのかということも含めて検討してほしい。地域図書館が4館も一度になくなってね有名になるなどという恥ずかしいことはないと思う。民主主義がいま危ないときだから、それを育てていく民主主義の根本というのは個人の尊厳だと思う。一人ひとり子どもたちがちゃんと育てて欲しいという思いは、市民の誰もが思っていると思う。そういうことも考えていくと図書館というのは個人の読書を中心にして考えていくのが基本であって、いろいろと人と人をつなぐとかは市がやってくれなくても市民の中でいろんなコミュニティが活発になっていくとそこではぐくまれていくものだと思う。コミュニティの拠点を取られてしまうと市民は本当に何もできなくなると思う。

市民：はじめのところの一番最後で、市議会の事業評価での今後の持続可能な云々という風に指摘されていると書かれているが、聖ヶ丘の存続をして欲しいということで署名を5千筆近く集めた。その後唐木田とか東寺方とか、豊ヶ丘、4団体でやってきた。この10月11月に市議会議員の皆さんと懇談をさせていただいた。全会派の皆さん参加していただいて話を聞いていただき、各会派の皆さんとも個別に話し合いを持

つことができた。その中で私が感じていることは、各会派の皆さんは私たちの気持ちをしっかり聞いてくださって、23年度の決算の審査のときに表明されているようなこういう言葉で私たちに発言された方っていうのはなかったような気がする。今回もこれを出す前に市議会の皆さんに23年度の審査のときと、現在がどうなのかということもやはりしっかり聞いていただいて、市民の声が大きく上がった後に選出された方たちが同じようなことを考えているという風なこういう書き方はやめていただきたい。一番新しいご意見をここに載せていただきたい。

市民：私は多摩市の図書館はとても素晴らしいと思っていて、はじめにに書かれているように105の市区町村の中で貸し出し数が第2位、予約件数が第1位ということで、これは本当に多摩市の魅力としてもっとアピールしていくべきだと思っている。この読書振興計画が、行動プログラムの前提で計画されているように思う。本当に読書の振興を考えて計画していただきたいと思う。もちろん他のプログラムとの関連がなければというのでも解るけど、本当に読書の振興を考えたときにこういう結果になるかなということですごく思う。この計画がどこを向いているのか。市民とか本を読みたいと思ってる人とか、この場所を必要としている人の方を向いているわけではなくて、市の政策の方を向いて立てられているように私はとても感じる。読書の振興を一番に考えてまずこの計画を見直してもらいたい。あと、雑誌や新聞と児童書とそれプラス蔵書を置くというところまでは踏み込んだという風に館長が言ったが、それでいいだろうと思われてしまっているのがとても悲しい。子どもにとっても児童書があればそれでいいわけじゃなくて、その児童書の先にこういう世界があるからこそこの図書館。児童書だけあればいいんだったら学校図書館でいいと思うし、そういうものじゃないと思う。もしそういう縮小された形でここが残るとしても、この地域の子どもたちの図書館を奪われたという風に思います。図書館っていうのがどういうものか一番解っているのは図書館の職員だと思うので、本当に市民誰もが使えるようにしてもらいたい。

市民：いまの意見に同感する。多摩市が今までずっと営々としてやってきたことというのは、地域館があって7館の体制でそこまでの成果っていうのが出てきたと思う。最初のころからの案を見ると、案全部のそこに流れているのは、3館体制を前提とした案のように思う。図書館のこれまでの仕事の積み上げからいうと、地域館を残す、いまのままの地域館じゃなくても、本館をきちっと作って本館の体制をちゃんとやって、拠点館を回して、地域館は残す。地域館を残してなにかやっていけないかということは、検討委員会でされたでしょうか。この案を見ていると、そういうようなことを検討してみるということがなくて、3館体制ありきから始まっているような気がする。全体の図書館の規模なども含めて検討し直して、4館は残すという方向の検討だってあったのでは思う。そういう風に検討をしていただきたい。子ども読書推進の計画などについては、市民が計画を作るときから、一年間市民も加わり市民参加があったと思うが、同じ図書館でそういう計画を作っていくときに、なぜ練る段階で市民がそこに参加できなかったのかということも思う。

市民：ソフトについて中心に書かれていて、ハードの方の面については行動プログラムの方の更新の中で反映していくと書きながら、実際そのソフトを検討していく中で明示されているのは、40頁と41頁、それから45頁から47頁のこの2頁、この4頁。ここに明確に書かれていて、40頁のこの図画。現在の本館が小さい。これが大きく機能強化されて、中心館になる。それから拠点館は行動プログラムと同じことで、左の方の地域館、最初は廃止でゼロになる予定、あるいはほとんど点に近いものだったのが、丸として拠点館を補完するものとして位置づけられるという風に若干見直し。廃止が皆さんの意見で、完全に戻らないが、そういう風になってきたというのは非常に大きな成果と思う。ただ、41頁に書いてあるように、蔵書については拠点館とか本館の方に移すと、人についても移すという風になって完全に分散から集中の方向に方向付けされている。それから45頁から47頁についての図を含めた分析についても、分散してきたサービスを本館と拠点館に移すのだという方向性は、大きな点では変わってないとい。ここが一番の

議論の中心だと思う。我々はこういう分析の仕方っていうのは本当に納得いかないし、46頁のこの利用度の分析も問題がある。そういう点では非常に意図的な文書であると思う。

市民：46頁で東寺方が、非常に薄くなっている。にもかかわらず、47頁には全域をカバーしていく検討が必要だと書いてある。非常に矛盾している。しかもその下に、小学校に通う児童は主な移動手段が徒歩であるためやはり自宅に近い図書館を利用していることが分かります、と書いておきながらこういう風にするということの意味が良く分からない。

先ほどの、市民から見たところで、認知度とあった。24年度の多摩市の公共施設の適正配置に関するアンケートを見ると、なくなってしまった場合あなたの生活に影響が出る施設、市役所出張所が96、図書館が58、温水プールが16、パルテノン多摩13です。図書館はもうダントツです。そのデータも入れて欲しい。それから、公共施設年間何回利用しますか。図書館が70回、市役所が21回、ダントツ1位です。新しい直近のデータでも、平成27年の8月にやったアンケートでも、良く利用する施設、第1位図書館51件。次がコミュニティセンター19件。どんなデータでも、図書館というのは多摩市の市民に利用されているし、なくなるとはいけない施設。認知度じゃなく、利用しているかどうか、なくなったら困る施設かどうかではないか。このデータを書き換えてください。

市民：内容についてでないが質問と要望。質問は、これから今日を入れて7回懇談会をやるが、その懇談会から得られたデータをわれわれに公表してくれるのかということ。あと、先ほど館長は今年度末に教育委員会と一緒に話して、最終案を作るとのことだが、懇談会の内容を教育委員会に話すと思うが、どういう内容を教育委員会に話すのか、渡す文書を公表していただきたい。それが要望

館長：パブリックコメントとして扱いますので、今回録音させていただきましたけど、間違いなく書くようにしていきます。それをパブリックコメントとして扱うということは、計画に意見を付けて、それに対して教育委員会としてどう考えるかということも付けて、作成する形になる。

市民：館長とか職員の方が聞いた意見を自分で解釈して教育委員会にいわれると思う。そのまま録音したものを教育委員会に渡してもしょうがない。図書館の方々が考えたことを知りたい。それは公表していただけますか。

館長：それを、そういう形で説明するかどうかも含めてまだ決めていない。

市民：学校統廃合は、夜を徹してやった。図書館は、子どもたち年寄りにとって、この館がなくなるとどうということか考えてほしい。この読書振興計画の進め方。3月いっぱいには決定するという手続き上の問題です。これは乱暴だ。図書館に読書振興計画、豊ヶ丘の場合1冊しかないし、持って帰っちゃいけないと。パソコンでネットを開けない方は見ようがない。その上で拙速に決めるということはまず問題。それから、12月19日にワークショップは図書館問題でやった。豊ヶ丘の12月19日で市長懇談会で、親子連れの小学生のお子さん連れてきた方が、最近豊ヶ丘に引っ越して本当に図書館があるということは良いと発言があった。そういう時に、市民懇談会をやるという説明が何もなかった。この読書活動振興計画を市民に広く知らせて市民の意見を聞こうというのであれば、あまりにも誠実さに欠ける。これは館長の責任だと私は思う。ほとんど図書館を利用している市民が知らないままに、この読書活動縮減計画が決められてしまう。3月中に決定するというやり方は、撤回して欲しい。慎重に検討すべき。

二つ目に、この計画は読書活動振興計画と叫んでいる。子どもから本を取り上げ、年寄りから本を取り上げ、図書館を取り上げる。あるいは配本所をどこか残すか知らない。基本的には地域図書館は残すといっていない。そういう計画はまさに多摩市の優れた1位2位の読書活動を、縮減すること。振興計画と名づけるところが、いうこととやることが全く違う。図書館の館長はじめそこで働いている皆さんは、市民に対して、十分考えてほしい。

もうひとつ。施設についてはプログラムでいいながら、中身は4館廃止。プログラム更新はその3月以

降来年度です。その方向付けをまず3月中に決めるのがこの振興計画だと思うので、基本的に撤回して欲しい。

最後財源ですが、図書館にいくらかかっているのか。豊ヶ丘図書館は年間2千3百万。多摩市が発表した数字でも運営費そのものは2586万。東寺方もそう。多分4館合わせて1億円いかないでしょう。パルテノンを25年計画立てたときは、平成25年では39億5千万、3年後に更新するのがね。それが今日58億4千万、20億も増えている。この上さらに数億円から十数億円、費用が上乗せされることがあると書いてある。だから本当に70億になるのか、分からない。パルテノンなくせということとは別だが。それだけお金かける費用があつて、この本館を作るとか結構、できるだけ費用かからないように。でもそのことと地域図書館を廃止するというのは、本館作るとはまったく別のこと。教育委員会に、意見を出して欲しい。強く望んでおきます。

市民：簡潔に二つある。45頁に、課題解決型の図書館を目指したメリハリの利いたサービスができる基盤になりますと、こんなことしなくていい。図書館の設置及び運営上の望ましい基準が改定されたときに、この課題解決がかなり前面に出たわけだが、そこに乗らなくていいと思う。むしろ、文字・活字文化振興法にはどう書いてあるか共有したい。この法律は、文字・活字文化が、人類が長い歴史の中で蓄積してきた知識及び知恵の継承及び向上、豊かな人間性の涵養並びに健全な民主主義の発達に欠くことのできないものであることにかんがみ、文字・活字文化の振興に関する基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務を明らかにする等々である。3条には、生涯にわたり、文字・活字文化の振興に関する施策の推進は、すべての国民が、その自主性を尊重されつつ、生涯にわたり、地域、学校、家庭その他の様々な場において、居住する地域、身体的な条件その他の要因にかかわらず、等しく豊かな文字・活字文化の恵沢を享受できる環境を整備することを旨として、行われなければならない。これを全面に出して、国の政策とは多摩市は違うけれど、これを中心にするから今までやってきたことは正しくて、それをさらに先に進めるといような書き方で書いて欲しい。そうしたら逆の意味で全国から注目されるものになるのではないか。

市民：私もそう思う。それを基準にしてやっていただきたいと思う。市長懇談会で市長が言われたことで、パルテノン多摩の存在は非常に社会教育の面からも文化施設としても大事な施設だと。それを維持していくというのは、多摩市民にとっては非常に大事なことだといわれた。パルテノン多摩を残せる将来的なものがあるならば、他の社会教育施設についても、しかも身近なところで活用しているものをなぜ残せないのか。

出席者

市民5名

職員 館長、企画運営係長、企画運営係1名、永山図書館長

.....
質問及び意見

市民：本館と中央館の違いはどのように認識しているか。

館長：多摩地域の26市で見ていくと、中央図書館という名称が多い。定義として、中央図書館と本館の違いについては承知していない。

市民：本館と永山・関戸の拠点館だけで廃止という情報が流れている中で、単純になくせば、貸出の水準は下がる。なぜ廃止とか縮小が出てきたかという、やはり人件費と感じられる。地域館もそれぞれに館長ということで、常勤職員がいると、人件費は高くなると思う。地域館というのは大体複合館が多いと思う。複合館の館長がいて、図書館の館長というのは特にいないのではないかと。必要最小限の常勤職員で、あとはボランティアとか、嘱託職員等を活かして、人件費を削減することによって、なるべく今あるサービスを残せるような方法を考え、蔵書にかけられる割合を増やすように活かしていただきたい。

市民：中央館の期限区切られているが、具体的にどういうふうにとこの場所、その辺を聞きたい。

館長：暫定活用中の本館をどうするのかというところでは、行動プログラムには、鶴牧倉庫跡地に、例えば民間のショッピングセンターと併せて作ったらどうか、という案がある。一方で昨年10月に、学校法人から土地の交換の申し出があり、不動産鑑定をして検討中。選択肢として現実的なものが出てきたと捉えている。

市民：質問15ページで、多摩市立図書館の抱える課題の6に蔵書の適正管理というのが項目として挙げられている。市民がすごく悪者に見えて、使っているものとして良い感じはしなかった。多摩の図書館だけではなくて全国どこの図書館でも抱えている課題かと思うが、年間にどれくらいの損失があって、ここに入れないといけない課題なのかどうか。

館長：汚損等というのは多摩市の図書館だけの課題ではない。他館でも、こんなに汚れた本があるという展示をしていた。本というのは水に非常に弱い。最近ペットボトルを鞆と一緒にに入れて、結露で濡れるということもある。どちらかという、そういうこともあるという啓発を今後していく必要があるという意味合い。亡失のほうも、ICタグを導入すると対応でき、自動貸出も一緒にできる。亡失の状況だが、26年度に行ったところでの不明率で、全体で0.12%、979冊が不明になっている。金額にすると、平均の購入価格が1,700円くらいの単価で、170万ほどという金額になる。『図書館ハンドブック』に数%程度という事例あり。同じく図書館ハンドブックには、書店にアンケートを取った結果というのもあり、多くは0.何%というアンケートの結果が載っていた。本館の不明率が0.35%で、永山が0.13%で本館のほうの方が倍以上多い。ここは持ち出し防止装置があるが、本館はなく、見通しも悪い。ICタグを入れたりという対策も併せて必要というところの課題出し。特に多摩市はこんなことが多いということではない。

市民：自動貸出を導入した場合、人件費がどれだけ削減できるかという、そういう試算はあるか。

館長：まだそこまではしていない。人件費が削減できるということになるのか、新たなサービスに職員の力を振り向けたいという両方の意味になるかと思う。三鷹市などでも、それを入れることで人を減らすというよ

りは、それを入れることで、職員はもっと利用者と向き合って、書架を魅力あるものにするとか、そういうほうに力を振り向けるという意味合いで導入される、という理由付けのほうが多いと思う。

市民：自動貸出にした場合、本を置いたらそれだけで、一度で貸出ができるのと三鷹の住人に聞いたが、貸出を受ける者のプライバシーを守るといえるものがあるかもしれないので、プライバシーを守るためにも私は必要になってくるものだと思う。人件費の削減と言ったのは、専門職は必要だが、貸出のためだけのアルバイトは減らせると思う。

市民：本館の再構築は決定というような話になっていると思うが、例えば今のところの耐震補強で使い続けるとか、そういう試算はしてきたのでしょうか。使い続ける方向での、実際にあるものを補強しながら使っていくという方法もあるのではないかと。

館長：ご質問の前のプライバシーというところで、図書館の職員はあまり気にしていないと思うが、そう思っている方は実は多いようで、自動貸出機を入れるという理由の中にはやはりプライバシーに配慮して、それによってあまり気にしないで借りられるという思われる方もけっこう多い、というように言われている。例えば、北欧の図書館でも、自動貸出や自動返却が非常に普及しているようで、やはりプライバシーという点も配慮されてそういうところが増えてきたのかなと思う。

本館を建て替えるのか、今のところを耐震補強して使えないのか、というところでは、議会からも質問があり、建築の部署とも話をしたが、今の図書館の校舎の土台のは、学校としての使用の想定で、本格的な図書館にするだけの加重は無理とのこと。耐震補強をするにしても、別の場所に仮設で本館を作って、耐震補強をして、仮設から引っ越すというようなことだが、それにしても土台の杭のところ耐えられない。そういうことも検討している。今の本館は空調も不十分。使い続けるのであれば、水道の配管を何とかしなければいけないということも出てくるかも知れない。というところでは、建て替えたほうが良いのではないのかな、というところを今考えている。

市民：利用してみても何かずっと向こうまで行かなければならず、開架を見るにも、長い距離に行く不便さは感じる。

館長：ただ、一方で、ところどころの人口密度が低いと思う。それは利用者にとっては、あまり人が集まりすぎるよりは良いと思ったりもする。永山など、新聞とか雑誌のコーナーは混んでいる。でも、やはり本館は使いにくいところはあると思う。

市民：職員の体制と、本の購入の問題について因果関係があるのかどうか、確かめたい。職員の体制は、当初多摩市の図書館ができてからずっと築かれてきたものがあると思うが、正職員で司書の資格を持っているのが52%。その体制が、今後一気に退職するということだが、これから、正規の職員に長くいてもらえて、図書館の仕事に専念してもらえるような体制にしていかないと、常にその不安定要素が続いていくと思う。それから、ボランティアを組み込んでいくということが、この計画の中でも考えられているようだが、どの分野で使おうとしているのか。図書館の質を維持していくためには、ボランティアが活躍できる部門というのは限られていると思う。地域の図書館で、今ある体制でやっていっていただきたいというの本音。豊ヶ丘のように人口が集中しているところで、規模をちょっとした形で縮小していくというようなことになれば、図書館のエアポケットになってしまう。

人件費については、正規の職員は、特別に図書館員だから高いって言うのではなく、一般職員と同じ給料と聞いている。正規の人が土台を築いていただければ、若い図書館員が育ってくると思う。いま非常勤のかたが非常に多くなってきているというのを聞いているが、責任の所在がなかなか難しくなってくると思う。非正規の人を少しずつ減らして、専門職の人を増やしていくということをこれから地道にやっていっていただきたいというのが、図書館の質を守るためには必要だと思う。図書費が減っているのは市長が代

わったときに減らされてきている。ある意味では政治的な意味合いもあるのではないかと思う。人件費は多くを占めているから、資料費が少ないと言われるのは、もう少し具体的にデータを出してほしい

館長：まず、最後の資料費のところ。ここ何年もの多摩市の予算を組んでいく中での状況で、教育なら教育、図書館なら図書館の枠内で何とかしなければいけないという状況になってきている。図書館の職員も増やし、資料費も増やしていくというのを、図書館だけその予算を広げていくというのは難しい。財政的に全体が厳しくなっていく中で、図書館だけが減らないというものの難しい状況があるという全体的な認識としては持っています。

市民：全体的に予算を減らしているのか。

館長：例えば、福祉の分野で色々な手当でだとかいうところで市が出さなければならないところがどうしても膨らんでしまうと、その他のところで何とかしなければいけない、というのが全体としては流れとしてはあると思う。その中で図書館だけ全くいじらないというのは難しいと思う。

市民：図書館だけ減らさないというのはおかしいということか。

館長：「おかしい」というよりは、やっていけなくなるのではということだ。3館にすれば大丈夫だというふうにも思っているわけではなくて、これから色々ご相談していくようになると思う。

市民：東寺方について言えば、本当に間に合わという感じがする。常勤職員が一人もいないで、関戸の館長と東寺方の館長を兼ねている人が応援に来るという中では、そこの地域の図書館が発展するのは難しいと思う。いくら IC タグを入れて自動貸出機にしたにしても、人が本を利用者に手渡していくという、貸出そのものが大事な業務。本を紹介しながら貸出をしていく、というのが図書館員の基本だと思う。

館長：人対人でありあまり把握されるのも嫌だという方もいるというのも現実的にはあると思う。IC タグは、自動化することで職員が機械的な作業をしているのをできるだけなくして、相談業務をできるようにしよう、という趣旨で考えている。永山など見ていただくと、顔も上げないでただピッピッピというように間違えがないようにするだけになっている。そういう機械的な作業を機械に任せて、もっと相談をしたり、本を紹介するという活動のほうに図書館の職員を振り向けたいという意味。

市民：地域館もそう。レファレンス質問は、クイックでなくてちゃんと調べなきゃいけないような質問はどれくらいあるのか。例えば永山は、カウントしている？

永山館長：多摩市の図書館に統計で相談の受付件数の数字をまとめたものがあるが、昨年度の平成 26 年度のもので言うと、年間 15,783 件です。

市民：それはクイックレファレンスも入っているのでは。

永山館長：そう。

永山館長：業務上でクイックと、ちょっと調査を行ったものは分けている。調査というのは、その日に何件くらい。割合としては 10 分の 1 くらい感じ。ただ、クイックと言っても、やはり色々な要望を持って来られる方がいるので、それなりに技術はいる。

市民：あいまいさがあるんですね。

永山館長：インタビューをしてその方が欲しいものは何か、というのを見抜く。本当に質問したいことは隠す、という傾向があるので、遠回りで来ることがある。長年の経験ではあると思うが、相手の気持ちを壊さないようにしながら、ほんとに欲しいものをぱっと出すというのは。

市民：そういうところが専門性が必要なんですね。

市民：そうですね。

市民：私も IC タグで利用しているのは町田の図書館で、鶴川駅前の図書館、あそこは貸出機もちゃんと入っていて、10 冊以上でもぱっと貸してくれる。それ自体は混んでいるときは良いかとも思うが、プライバシ

一がどうのこうのという問題ではないと思う。プライバシーは職員が守らないといけない問題で、それは徹底していただかないとおかしなことになると思う。だから、IC タグが入ったからプライバシーが守られるとか、守られないという問題ではないと思う。

館長：職員はもちろん個人情報を守っている。

市民：ボランティアに個人の秘密は守らないといけないと言っても、守れないと思う。あくまでも図書館というのは、専門の職員の人たちが意識してやる部門だと思う。市民の「知る」ということを司るところだから、「知る」要求を充足させていただくことが一番の基本だと思う。人と人をつなげるとか、ビブリオバトルとか、そういうのをなさるのは良いかと思うが、読書会に集団貸出をやってほしいとぜひお願いしたいと思う。

館長：ボランティアについては、今、障がい者サービスで対面朗読していただいている方もボランティアという形でやっていただいている。その方達には当然プライバシーは守っていただくようにしていただいている。そういう実績も今までもあるということもあります。今考えているボランティアはただ単純な作業を置き換えるということではないと思っている。

市民：全体に図書館の費用削減ということで、児童が例えば児童館で貸出するとか、縮小しても実際に貸出数が減らないような工夫というか、貸出場所を増やす。子どもの場所とかコミュニティセンターとか。それと、現職世代の人は今後 20 時と書いてあるが、都心に勤めていることを考えると、20 時ぐらいまでの開館というのは早急に進めていただきたい。それと、祝日が本館休みだが、祝日が休みというところはもう主流ではない。サラリーマンが利用しやすくするには、祝日の場合は翌日休みとか。現職世代にもっと利用してもらうためには、土日祝日は 19 時、平日は 8 時など。勤務時間を長くではなく、時間をずらして早番・遅番にすれば勤務体制も取る。あと高齢者がどんどん増えていくので、図書館に来るのが減る。そうすれば地域でせめて、コミュニティセンターとか、老人福祉館とか、児童館で予約・貸出ができるようにすれば、そういう足が遠のいた人も、利用できる。そういうことをして、貸出とか、利用状況が下がらないような工夫を最大限考えて、この 20 代 30 代というのが、忙しいから利用したくとも利用できないという、どんどん高齢者は年取って、足が図書館に遠のくと。今あるものが活かされていかない。ぜひそのところ難しい問題ではなく、やろうと思えばすぐできることだと思うので、ぜひがんばっていただきたい。

市民：質問二点。一つは、はじめにの文章の ii ページで、ビブリオバトルとか一箱古本市とかが挙げられているが、悪いことではないと思うが、ここに挙げられているのは市民から意見が寄せられて、こう書かれたのか、ただ事例としてこういうことがあるというのか。

その文章の後の、「その読書を支える図書館も」ということで、「地域の課題解決に役立つ「これからの図書館」が求められています」という文章があるが、誰が求めているのか。多くの市民が求めているのかどうか疑問に思っている。

40 ページの、「拠点館の補完」というこの図で、サービスポイントやサテライトと言われてきた時と大きくは変わってなくて、この「拠点館を補完」というのは、図書館ではなくなるということを前提としたものなのか。「拠点館の補完」という言葉、使っている市民に向かっている言葉ではないと思う。

館長：まず、一点目の「はじめに」のところで、ビブリオバトルは実際に昨年度試行でやっている。その中では非常に好評で、単に図書館がよそでやっているから挙げているということではない。あと、地域の課題に役立つこれからの図書館というところでは、国の提言等で求められているところもあるが、図書館協議会等でも、これからの図書館をどうしていったらいいかという中で、この計画に対するご意見としてあった。この「拠点館を補完する身近な場所」というのは、これから皆さんと色々話しながら、建物の問題もあるので、この中だけで言い切れないところもある。その名称や、図書館条例の中にどう位置づけるのかという

ところが、やはり名称に関係する。そこまで言えない。

市民：「読書活動振興計画」というのが、振興していく中身ではないと感じる。読書振興計画というのを調べてもらったが、実際にやっているのは全国で17市町村くらいで、図書館が非常に少なく、厳しい状況の中で、市民と相談しながら一緒に取り組んできている。多摩市には必要ないのでは。子どもの読書振興計画の場合は市民と一緒に策定委員会もやったし、市民委員会というものもあると伺った。5年後にはそれを統合するとあるが、市民の意見はこの中には反映されていない。このまま成立した場合、今までの読書活動振興計画で、子どもたちの読書活動として今までやってきたことが、この中に反映されるのか。

市民：別の時間を、取ってもらいたい。

市民：一番言いたいのはやはり中央図書館にしてほしい。それで、行政支援をしてほしい。課題解決型の。図書館が上手に色々情報を提供して、行政支援をしていくことによって、図書館がある意味が、すごく有益な何かを得られるような気がする。本が好きで、借りる方はすごく借りると思うが、そうでない方もいるし、図書館が自分にとってこんなに役に立つというのを気づいていない方もけっこういる。私達にとって良いのはやはり中央図書館にして、職員が集中することによるメリットをいくつか挙げて、そこが絶対大事だと思う。その後の後継者をつないでいく、若い人たちを育てていく上でも。今けっこうノウハウのすごいある方がいるわけだから、その辺をつないでほしいと思うので、中央図書館にして、行政支援をぜひやっていただきたい。そのためには、やはり市庁舎の側に中央図書館があつて行政資料室をちゃんと入れてほしい。そうしないと、レファレンスとか情報提供もうまくいかないような気がする。でも、地理的に難しいということであれば、その辺が上手に機能するような工夫をしてほしい。図書館協議会で答申があった中にも、パルテノンとの連携もうたっている。博物館機能もある、歴史ミュージアムもあるから、そういうところとの連携もすごく良いことだと思う。そういうところも全然この中には盛り込まれてない。あと、TAMAMIRAIの報告書に対しての図書館の考え方という書類が出ているが、それでやっていくとしたことのどれができていて、どれができていないかというのを、ちゃんと市民に見せていかないと。例えば、図書館の広聴の公表、意見が出ているものに対してどういうふうに対処したか、そういうのも公表されてない。

今ツタヤの問題があるが、収集方針をきちんとしないといけないと思う。「資料収集要綱」にホームページでなかなかたどり着けない。この収集方針があまり詳しくない。もうちょっと、市民に問いかけていいと思う。利用者懇談会でこれをテーマにしてみるとか、寄贈の仕方とか。うわさに聞いたら、ダンボールで寄贈で持ってきた人がいたら、ハコも開けずに拒否されたと聞いた。他の図書館だと5冊以内にしてくれとか、要綱等に細かく書かれている。それから、選書で迷ったところを、図書館協議会でかけて、こういうふうに迷いました、こういうのはどっちにしたほうが良かったか、そういうところにかけていくことで、そういう境界が見えてくると思う。そういう中でもう少し収集方針が詳しいものになっていくといい。あと、ボランティアの受け皿、どういう仕事を、例えば本の修理とかを講座をやって、募集するとか、そういう、宅配もボランティアが関わっているのでは。その辺もあまり具体的でないので出したほうが良い。

市民：「拠点館を補完」というのがさっぱり意味がわからなかった。地域館でボランティアをしているが、子ども達がおはなし会を楽しみにして集まってくることとか、そこで実際にそこにある本を、見て借りていくというので、そこから本を吸い上げて、冊数を減らしたら、これからの子ども達はいったいどうやって本を借りていくのかなという不安がある。中央館にたくさん資料を集めて一度に見られたら良いという話があったが、実際に中央館に行けるのはその地域の人だけじゃないだろうかと思う。歩いていける距離にある図書館を、子ども、特に小さいお子さんを持つお母さんは利用する。そういうことを考えていかないと

いけないと思う。

市民：この読書振興計画がずっと2年か3年かけて、こういうふうに変えてきた努力自体は、敬意を表したい。一番最初に市民懇談会に要旨で図られたときの、まちじゅう本屋さんみたいなプランを見たときには、多摩市には図書館がないまちなのかみたいに思って、その案にはがっかりしたが、今のこの案がとても良いのかということに関しては、ここに貫かれているのは、やっぱり3館でいこうというのがずっと底に流れていると思う。地域館をきちっと残していくという姿勢、地域館の今まで果たしてきた役割というのをきちっと守っていただきたい。守っていく姿勢でこの読書振興計画というのを立てていただきたいと私は思う。10万から15万の規模で全国の貸出率が全国2位というふうに努力されてきたということは、多摩の図書館がほんとに地道に努力されてきたことだと思うので、もっとそのことを誇っていいし、そういう実績があるということで、地域館を残していく方向で、この読書振興計画というのを立てていただきたいと思う。

市民：市の財政の厳しい中で、職員を削減しても、今まで以上のサービスを維持できるようにするにはどうするのかということ、地域館がどうなるかわからないが、そうなった場合にはフォローできるようなことを考えてほしい。開館時間の延長についても、とにかく利用者にとって不便にならないような方法をぜひとってほしい。細かいところとか難しいところは別として、利用者のサービス低下にならないようなことをこの中で考えていただきたい。

市民：決める過程で市民の意見が入っていない。策定委員会の中で、市民委員会みたいなのを作ってやらないと、そういう方法も考えて、拙速に3月末にこれを仕上げていくということではなくて、期間をとってやってほしい。子どもの読書振興計画の時はメンバーも市民の中から選ばれて行われて、市のほうの策定委員会とが意見を戦わせながらやってきた。市民としては、自治基本条例ら言っても良くないと思う。

出席者

市民11名

職員 図書館長、企画運営係長、企画運営係1名、サービス係長

.....

質問及び意見

市民：図書館のこういう計画案で、図書館のあり方、どうあるべきか、これはパブリックなものですから、図書館協議会のパブリックな議論などを踏まえて、市民に対してどういうものを提示できるか、そういうことについて、経過報告で述べられていないが。

市民：関連して。館長から経過報告あったが、経過についても疑問と問題がある。どこで議論すればよいか。

館長：この後内容について説明し、その後ご質問とご意見というところで、ご意見としていただければと思う。

市民：図書館のあり方が、如何に検討されて、盛り込まれることになると思うが、今の説明の中では、経過と今後のスケジュールについてはあったが、今申し上げた点は触れられていない。クリアでなかった。その点今伺いたい。

館長：図書館の運営について、どう考えてということ。

市民：私全く同意見で、今日の根幹に関わる問題だと思う。その議論抜きに、内容の個別のあれこれやっても、埒明かない問題含めてある。その辺の議論、あるいは今の質問、私も根本的に疑問。読書活動振興計画になっているけど、内容は図書館のいわば基本的スタンスの変更計画。これは、世の中でいうすり替え。教育委員会から、こんな文章が出るのは、恥ずかしいくらい驚いている。それをどこでどう議論するのか、はっきり教えて欲しい。

市民：お二方と同じ疑問を抱いている。そのいわゆる疑問なり意見なりの時間は、後でゆっくりととっていただけたらと思っていた。懇談会なのだからその中で、これに対するものの考え方というのも重要な問題だから、そこから率直な意見として、出せばいいと思う。とりあえずは図書館長のスケジュールでとりあえずはやっていただき、それで最後に疑問に抱いているものを出せばいいのではないかと。

市民：私は図書館計画として、いろんな形で審議されてきた、それが経過報告の中で触れてないというのは不思議だと思った。導入の部分として、最初に検討のあり方について、図書館のあり方、その点は一言あってしかなるべきじゃないかと思った。

市民：とりあえず説明を受けて、その後たっぷりと僕たちは時間をもらった方がいい。そうじゃないと前に進まない。

市民：説明の方は皆さんこれ読んできていると思うので簡略にして。多摩市の教育委員会としては、図書館というものの活動をどう捉えて、将来どういう形にしていきたいのか、基本目標1、2、3、4、5と出ているが、そういう姿を教育委員会として簡単に説明し、皆さんの意見を多く聞いた方がいいのではないかとと思う。

市民：議事進行したほうがいい。

館長：では、まず内容について説明する。

<説明>

市民：大事なことが違うように書いてある。細かいところだが、市議会の事業評価でやったことで、計画の中で違う書き方をしている。この計画は、国の図書館法とか、望ましい基準についての説明が、ある部分カットして違う文面のような書き方をしている。市民に対して正しい情報提供をしてない。図書館というのは正しい情報提供が大前提。自分たちの体制を守るために、書き加えているような印象を受ける。はじめにというところで、下の方2行目、市議会の事業評価でも、今後の持続可能な図書館運営を考えると、現状を存続していくというのは不可能であるというような書き方をしている。もう一つ、正しい使い方をしている頁がある。15頁の7、図書館の運営に対する指摘で、下から7行目、多摩市議会は、平成23年度決算における事務事業評価において、現状維持による図書館行政の、発展向上だ。だから意味合いが違っていると捉えている。はじめにに出すということは、大事なところだから、やはり市議会の言うとおりに直したほうが良いと思う。

市民：関連で。今の、市議会における、事業仕分け、そこで図書館のことを論じているのは、正確にした方がよいと思う。ただ、全体の経過の中で全く館長触れなかったが、少なくとも4つの地域で、陳情だとか政策提案して、市民の署名や声を上げてきたことについて、そういう市民の意見を、どう把握されているのかというのを抜きにではなく、整合性をきっちりしてもらわないともものすごいおかしなことになる。ましてや、議会は豊ヶ丘で言えば存続の陳情を採択した。プログラムは必然的にそこから見直し。それを行政当局として、どう受け止めているか。市長の言い方、企画の言い方、教育委員会の言い方、違っていると思う。ましてや40頁に出てきた、この図柄の問題でいえば、これは当初の公共施設のプログラム、骨子案のときから出てきている考え方。市民と議会の現時点における認識はどうかという経過的な認識が示されないと、ものすごくおかしなことになる。企画部局は、割とその議会の採択を尊重してると言っている。だけど教育委員会は、議会の採択をきっちり受け止めてるとはとても思えない。教育委員会として、議会のあるいは議会に反映された、市民の意見というものを、単に賛成反対という問題でなくそれを踏まえて、プランニングあるいは政策を作らないと。図書館は市の施設といえど市民の施設。行政の施設ではない。当事者性からいったら市民のための施設。今日これだけの人数で必要な意見を伺いましたでは、おかしな話になる。単に読書活動振興なんていう範疇に収まらない問題。だから、市長部局でずっと責任持ってプログラムの話をやってきたと思う。教育委員会がこの間の経過を、いい加減な認識でいつてる考え方ということで出されると非常に違和感がある。そういう意味で経過の認識をしっかりといただきたい。

市民：第1点目は、このはじめにの要するにi頁に書かれている最後の行、現状を存続していくことはもはや不可能であると。括弧で引用されているが、これは議事録とかそういう形の中で明確にこの文言が使われているということの確認をしてほしい。もしも確認できなかつたらこれは削ってほしい。また、どういう文脈であったというのが非常に重要。結論だけドンと持ってきてということよりも、状況を踏まえて発言したと思う。それともう一点は、図書館の見識は何ですかということ。多摩市教育委員会の図書館として書かれているその長としては図書館長なわけで、その点についての図書館長の見識はいかがなものですかと聞こえた。先ほどから言うパブリックな図書館、市民の有力な財産、知的財産として、それをどうやって展開していくかっていう、非常に重要な役割を持っているから、老朽化と人員、職員のことは良く書いてあるが、ソフトの部分が要するにもう少し展開されてしかるべきではないのかという印象を受けている。この、多摩市の読書活動振興計画というタイトル。それで何が併記されているかと言うと、副題が、市民の読書活動を支える取り組み、というのが第1点。それから第2点が、土台となる図書館の運営。これが明確化されていなければ、この計画案の意味はない。しっかり書かれているかどうか。はじめにの部分で言うと、この計画はと言うのが真ん中から始まっている。ここが、計画書の一番大事なところだと思う。この部分のはじめにの大事な部分が、結論のどの部分に対応するか。そういう対応する部分は、この計画は、

読書活動を活発にする様々な取り組みの到達点とある。取り組みますと言う宣言ではない。読書活動を支える土台となる図書館運営の課題解決の方向性を示すとある。これは方向性ですから、こういう風にやっていますでよろしいと思う。この目的で、これはここまでにクリアしますとか、そういうことを目標としますということは一つも書いてない。計画案ですから、期間を設定した以上は、図書館として目標を掲げて、例えば3年以内にやりましょうと、書き方に反映して欲しい。そういう計画案としての起承転結をはっきりとして、この目的の到達点とそれについては、これが対応しますよと明確に示していただきたい。市民の皆さんにパブリックコメントを求めると、そういう文章としてもしっかりした文かどうか、というのをまずそこをうまく踏まえてもらいたい。

市民：この振興計画は、図書館だけで進めるわけではなく、市全体で関係部署が協力し合って進めていくわけだ。

それなのに教育部図書館という形で、これを出している事自体がおかしい。それと、現状に対して課題があるから、この振興計画を作るわけです。課題に対する考え方が、この計画書で14頁から多摩市立図書館の抱える課題が載ってる。建物の老朽化とか、人件費の問題とか、振興計画とは直接の関わりはないこと。現状でも計画を作らなくても、やらなきゃいけないこと。職員の先細りなどというのは計画とは何にも関係ない。ICTの活用による情報提供、これは図書館だからやっていく、現状でもやっていく問題です。書庫の問題なんか、なおさら図書館自体の問題。蔵書の適正管理も、これも関係ない。図書館の運営に対する指摘、これは議会が指摘したことです。ちゃんと受け止めてどう対処するかという問題。それはあると思う。課題の捕らえ方がきちっとしてないで、果たして計画がちゃんとできるのかという内容。課題をきちっと捕らえてないから、現状を認めるような内容になっている。振興計画は市民全体が主役になって、読書活動を盛んにして、人づくり、市民力、市民の力をつけて地域の課題解決にちょっと携われるような人達ができてくれば良い。そうすると、市役所の関係部署も一緒になって動かなかつたら、この振興計画はうまく進まない。関係部署のことは何も書いてない。はじめに読むところを読むと、なんでこの計画を作るのかがわからない。市民にとってなんでこの読書振興計画が必要なのか。この計画ができたなら、プラスになることあるか。恩恵を受けるかどうか。図書館がどのように変わるのか、取り組みを見てると、現状やっけること。現状認識の、認めた内容。この振興計画、もっとゆっくりやってもいいのではないか。この計画のまま出したら、他市は注目しているんで、比べられると困ると思っている。

市民：私もこの読書活動振興計画の策定が、この時期になぜ出てきたんだろうということ、ずっと疑問に思っている。社会教育を考える会という4つの地域の方々が動いていて、その会に時々顔を出して、皆さんのご意見を聞いている。その中に、ちょっと指摘があったが、この計画の作るきっかけになったものはなんだろうと。この計画を策定するための委員会の設置要綱というのが、ある。それを見ると、第1条に文字活字文化振興法第5条の規定に基づきと書いてある。私は、国がそういう法律を作って、みんな本を読みなさいよと上から言うのが違和感があった。読書は個人的な営みなのに、余計なお世話みたいな印象を持っていた。でも、議員がそういうもの作らなくちゃいけないほど、子どもたちの将来を考えたときに、そういう動きがあったとそれを認めるならば、まあいいかなと。第5条の規定で多摩市もこれを作りましょうということになったと、書いてある。でも、多摩市のこの状況を見てみると、日本の全国の自治体が、この読書活動振興計画を作っているというのは、今までそんなたくさんない。たまたま今、多摩市は、いろいろ指摘もあって、公共施設のことを考えて行きましょうと、それも大変大事な視点。ちょうどそこをリンクしている形でこれが出てきたために、素直に一緒に考えて行きましょうという風になれない何かがあると思える。読書を振興するためには、今まであったこの公共施設である図書館が、すごく大事。この三多摩地域で図書館は、全国に比べてレベルが高い。でも、人の問題とか、お金の問題とかで下降気味にきている。これを多摩市民と一緒に考えて、何とか維持して盛り上げていって欲しい、ということは皆さん共通していることだと思う。だから私は、この読書活動振興計画という名前がこれが出てきたときに、

すごく違和感があった。ここは図書館の振興計画であるという風に基本のところに戻って、いろいろと進めていくことがいいのではないか。副題のタイトルがついたが、市民の読書活動を支える取り組みと、土台となる図書館の運営についてと2行目が入った。中身についてはこの二つのことを策定すると言っているが、私は、近隣の自治体の図書館の計画を見ても、図書館振興計画というものを順次やっていくことが市民の期待に応えてるという風に思う。

市民：今の問題で、岩永議員が図書館の基本の運営計画と読書活動振興計画を分離しなさいと言っている。で、福田部長が答えている。今回の広報見ても人が来るわけない。読書振興計画とって、どこに当事者性を持って参加する市民なんかいない。中身はこれ、図書館の振興計画です。はじめにと40頁のところ、これは大問題だと思う。老朽化と職員体制と、老朽化なんて当たり前で、図書館だけではない、パルテノン含めて老朽化どうするかって言う基本方針を出さなきゃいけない。図書館だけ老朽化で、地域館を維持できないみたいものの言い方世の中通用しません。いつまでやっているのか、テープレコーダーのように何年繰り返しているのか。多摩市7館構想って他の市からいったら、多摩市は見識高いねって言われてきたものを、中央図書館を作るから3館に減らしますみたいな話が、ぜんぜん理屈抜きに定義されて。館長一生懸命、布石を打ってるとしか思えないような作業をやらされている。最初の現状の、存続して、不可能である、教育委員会の責任ある単語なのか、市長部局の責任ある単語なのか。こんな文言を図書館長に作らせているような状態で、読書活動考えろだとか、図書館振興考えろって、ナンセンスです。地域課題の解決と言っているときに、地域館を廃止しますということを平気で言ってきている。論理的に、どういう整合性があるのか。ソフトとハードとまことしやかに分けているが、こんなソフトとハードの概念はない。公共施設で、ソフトのないハードなんてない。制度的なバックグラウンド含めて機能を持っていて、ソフトとハードで一体性を追求する活動だから公共施設。こんな機械的な分離してできてる公共施設なんてどこにあるのか。箱だけ作ったり、機能だけ独自に生きてる公共施設ありますか。こんな馬鹿なことを、いつまで言って。これ進めたくないから言っている。誰が責任持っているのか。今日は気になったことは言うつもりでいますし、言っていきます。市民の中にある切実なる実態的評価、あるいはそれについての政策スタンス、少子高齢化の中で、このコミュニティをどうやって育成するかって、市長は、この前も言っている。公共施設問題は熟議、要するに徹底した議論を通じた解決が必要だと。なんで3月にこんなプランが、3館か7館に関わる重要な問題を、教育委員会の責任で3月に決めるなんて、これなんですか。市長がそういうこと言ってない。こっちだけ先にやって、プログラムの方は後ですと、ここで言う中央館だとか拠点館だとか地域館だとか、これはどういう扱いになるのか。おかしいです。経過的にあるいはスタンスとして。読書活動振興計画と図書館の振興問題をドッキングするにしても、まず別々に、市民の基本的なニーズ、要求を踏まえた計画をきっちり作る。何回同じこと言われて、なんでそういう仕事やらないのか。本当はいろんな具体的な、提案、意見、要求を聞いて、そのプランニングに持ち込むべきで、説明会を懇談会に変えたって何の解決にもならない。もっとより多くの市民、少子高齢化時代をどうやって生きていくかってことで毎日一生懸命やっている人達を踏まえたところでの地域館のあり方を検討して、全市的に中央館を、この時代にあったサービスするか。これ両方重要な課題です。中央館作るから地域館要らないみたいな論理を、いつまで続けているのか。こんな馬鹿な話を、教育委員会で、教育と名がついた場所ですて欲しくない。

市民：この読書活動振興計画、ざっと読ませていただいて、それから図書館長の説明を受け、全体に現状を取り巻く状況と、多摩市の抱える問題、課題、それから将来の取り組みの体系ということで、非常にすばらしいというか、よく分析されている部分があるので、いいなと思う。言いたいことは、字面だけを追うといい。今後の持続可能な図書館運営を考えていく上で、発展というか不可能に近いと、そういった表現を最初に見たときに、なんかがっかりした。読んでいるうちに大変すばらしい内容で、いいなあというような、

そこ一点だけを除いてすばらしいものだと思っている。ただ、冒頭で言ったように、これが本当にきちっとやっていたら、こんなにすばらしいことない。また、私たち市民が望んでいることを言っていると思う。ただ、僕がおかしいと思うのは、そのコンパクトシティの名における、7館体制というような地域に根ざした地域の図書館を、3館に減らして、駅前図書館にみんな切り替えていくということで、果たしてここに書かれていることが、本当にできるのかどうかといったら甚だ疑問。豊ヶ丘の方の図書館を守る会とか、それから唐木田とか、いろんなところで様々な問題が起きています。そういったことを真摯に受け止めない限り、こういったことは、やっぱり絵に描いた餅。字面だけ追えば大変すばらしいが、けれどもそれとは相矛盾している、あるいは真逆に、逆行している。最終的には、人件費の問題、老朽化の問題、それからいろいろ様々な抱えている問題、それを、サービスを向上させるためには、7館体制を3館体制にしていきましょうというような、結局はそっちへ全部持って行ってしまふ。ここに非常に大きな問題があると思う。教育委員会という、人間を教育する委員会がこんなことを出しているものかといったら、やっぱり恥。根本的に見直すべき。図書館長にお聞きしたいのは、今までパブリックコメントを何件かやってきたと思うが、その中でどのような意見が出されたのか参考にお伺いしたい。

館長：昨日と、先週の土曜日に、懇談会をやってきた。子どもをお持ちのお母さんなどから、身近な図書館がなくなると困るという意見をいただいている。この中では、一定の蔵書、子どもの本を中心に置くという風に出しているが、それだけでは困ると。子どもにとっても大人の本というものもないと、子どもの本だけあればいいというものではないというご意見もいただいている。後は、時間をかけてやるべきだというご意見をいただいている。

市民：皆さんが、地域に根ざした図書館を、少なくとも最低でいいから現状維持のまま残して欲しいというのが、大多数の市民の声だと思う。そういう点を、パブリックコメントということですから、真摯にこれを聞いて、反映させていくという努力を、ここに来ている職員の方々にぜひともお願いしたい。

市民：私が多摩市に移ってきて三十何年、小学生だった子どもを連れて、豊ヶ丘図書館しかなかった時代だったが、よく図書館に通ったという思い出がある。子どもたちは結婚して、孫ができて遊びに来る。唐木田の図書館に行ったり、本館に行ったりとか。まだ小学生低学年だった、まだ小学校に上がってないような子どもたちも、図書館に来て一緒に遊ぶ、その本を見つけるというようなことをやっていた。これを読んでみると、3館にするという根底で全部書かれている。要するに中央図書館を作って、関戸、永山の図書館、その3館に集中することが、全部根底になっている。それ以外の発想は何もない。教育委員会職員の頭の回転がおかしい。日本で言えば国会図書館が中央図書館として機能している。各都道府県には機能図書館として中央図書館がある。市区町村の図書館というのは、その機能図書館の役目はやってはいけない。直接市民区民に接触して、図書館教育をする場所。中央図書館を作るというのは、国会図書館的な発想が教育委員会の中にあるんじゃないか。駅前で大きな図書館ができて、誰でも行ったりきたりができる、それはいい。でも、南野から赤ちゃんを抱っこしていけるの。豊ヶ丘図書館が廃止されれば、もう南野からは行かなきゃいけない。諏訪地域から、バス停まで遠くにあるところから、永山図書館まで赤ちゃんを抱いて、あるいは乳母車を押して、行かなきゃいけない。行けないです。そういうところが目がいてないということははっきり言えば国の中央図書館的な発想が、多摩市の中央図書館を作るころに来てる。地域の市民とともに、やっていくという、この発想がうすいのではないか。私が子どもや孫たちと行ってみて、今この3館になったらなかなか行かない。そういう発想をまず一つ変えなきゃいけない。それともう一つは、中央図書館を作るというが、財源はどうするのかどこにも書いてない。私考えたのは、さては市役所はこの西落合中学校、旧西落合中学校を全部売り飛ばして、その費用でどっかに建てるのか。そうすると、ここもまた、マンションがいっぱい建つような地域になってしまう。不動産業者にとってみたら最高の場所。図書館活動っていうのは人件費が当然の資本。ここにある人件費が増えるなんていうのは当

たり前のこと。それは市民も容認しなければいけないこと。知的財産を作るということなんですから。今ひとつの例で言えば、小学校、義務教育を考えてみればいい。小学校中学、今高等学校も義務教育化していると私は思っているが、日本国民として、生きて、この国を支えて生きていく、さらに世界に出て行って、日本国民としてのプライド、あるいは規律っていうものを持って生きていく。そういう最低限の知識と体験を子どもたちに与えるということで、義務教育はあるわけ。これが昭和30年代、まだ子どもたちが増えていくときには、小学校1年生の子どもが学校に通うのにどのくらい必要かということで、学区は決めて。少なくとも20分から30分で小学校に行ける。それが小学校の拠点になっていた。文化の拠点です。小学校1年生よりひどいかもしいです。赤ちゃん背負ったり、赤ちゃんを乳母車に乗せて図書館までいこうとなると。そういう発想がない。中央図書館というのは、多摩市の中に国会図書館と同じ機能を持った図書館を作るという発想が、役所の方にはあるんじゃないか。でも、子どもたちのために、それからお母さん子どもを抱えているいろいろなことをしようとしてもなかなか学べないから、図書館に行って子どもをちょっと遊ばせながら本を見ようか、あるいは料理の本を見ようかという、そういうお母さんたちを援助するという発想が、教育委員会にないんじゃないかと思えるのがこの提案。図書館活動というのは、小学校教育よりもっと幅広い。小学校教育の場合では、学習指導要領という規制がかけられ公的効力を持っているもので、ある制約を受けてやっているが、図書館の活動は、制約を受けるのは憲法だけなんです。図書館関係の法律で、罰則規定が入っている法律は多分ないと思う。思想、信条、学校教育の中では規制されているような内容、それが自由に市民は図書館で得ることができる。その発想も、私はもう一度見直して欲しいと思う。退職した後、一本杉公園で十何年ボランティア活動をやっているが、その時に、市の管理職というのは案外勉強してない。地方公務員法違反なんてことを平気でやる。貝取南公園のかい掘りをした。水を減らして、外来種の魚を除去することをやった。そのときに、コイを異動しなきゃいけない。コイ140匹くらいを一本杉公園の、7、800平米の池に140匹も放り込んできた。僕は、東京都がコイの移動禁止令を出しているはずだけどなと思った。それ、話をしたら、いや、解除されたと言う。で、かい掘りが終わったから140匹のコイを貝取南公園に戻すのかなと思ったならば、東京都が、また禁止令を再発行しちゃったんで、もう移せないと言う。3月1日に解除したと言う、3月31日にまた元に戻したなんてことありえない。東京都の方にその問い合わせた。市の職員が、東京都が発した命令を勝手に効力を中断する。それから、また勝手に復元するというのを平然とやっている。多摩市と言うのは管理職の質が悪いからこういうことが出てくるのか。私は、図書館活動って言うのはすごく重要なんだという。市の場合には、上からの目線ではなくて、弱い立場の人達、子どもであるとか子ども抱えてあるお母さんとかそういう人達が、喜んで、ああ良かったと思えるような目線で、もう一度読み直して欲しい。そのためには、人件費がどうかかろうと、知的財産を増やすためならば、多摩市民としては、私は文句は言わない。

市民：基本的には考え方は、今まで発言された方のお考えと同じ様な点になると思う。一つは、中央図書館を建設することと、それから3館構想というところで、結局そこで終始しているという点で、反対です。これは読書活動振興というよりも、むしろ、読書活動は、減退というか停滞するのではしかない。こここのところは一番大きいわけですが。字面からいうと、いいことが書かれているという風におっしゃった方がいるが、私は字面から言っても、タイトルと中身、というような点で考えると、疑問を感じざるを得ない。例えば課題、ローマ数字のii頁のところ、課題と書いているIIとあるが、誰が求めているか。図書館の役割には当然課題解決型の役割と、貸し出しという両面があると思う。現在、多摩市の図書館は、貸し出しという面が中心になってるって言うが、それも大事な、それによって得たものではないか。そういうものをさておいて、課題解決型という、これはどこから出てきたんでしょう。おそらく国あたりの方で出てきたんでしょうか。課題解決とおっしゃいますが、それを否定するものではないけれども、そうい

うものだけに終始して、読書活動が盛んになるわけがない。一方で、巻末資料として45頁からあるが、それを見ても、明らかに、3館構想になった場合には、減るといのが出てきている。そういうことを分かった上で、こういうことを打ち出すということが、故意に減退するものを含んでいるとしか言いようがない。それから、ローマ数字のiii頁。地域課題とか、市民の知るといのが出てきているが、字面からすると違和感を覚える。地域館を廃止して、どうしてこれが実践できるのか。私にとっては地区館が廃止されれば、これは明らかに逆の方向だと思う。それから、13頁には行動プログラムの中では地域館の集約が問われているというが、市が作られた行動プログラムの中で問われているのであって、市民が問いかけていたのではない。それから、26頁のところには、誰もが使える図書館とありますが、誰もが使える図書館、私は誰もの中に入っていないのか。小さい子どもの手を引いたお母さん願いは誰もの中には入っていないのか。入っているのであればすごく字面としても違和感を覚えるタイトル。3館構想に集約して、どうして振興になるのか。しかもそのことをあいまいにしている。40頁のところには分かりやすい図が出ていて、現在の地域館はどうなるのと思ったら、点線が小さくなっている。これ以前のはサービスポイントとなっていて、なんだか端っこの方にはじき出されていたという話を聞いたことがある。結局この計画を作られたときには、地域館を大事にしていこうという姿勢はないと感じた。中央図書館には喫茶コーナーとか細かいことが書いてあるのに、中央図書館のイメージもはっきり分からない。中央図書館が要らないといっているわけではない。要らないという人もいるが、私は要ると思っていいる。でもツタヤの真似することはないんじゃないかとこれを見て思ってしまう違和感も感じた。現在の地域館がこんな風に小さくされてるところになってることにも、曖昧さというものをすごく感じた。私たちが声を上げたから、それを無視するわけにいかなくて、こういう形になっていたんだとしたらそれはありがたいことではあるが。図書館の機能はいろいろな多面性があるから、貸し出しも大事、身近で借りられるということも大事、身近に本があるということも大事、ですから、きちんと住民の声にこたえて、残していただきたいということを強く思う。あと、市民懇談会は、非常に結構なことですが、その開き方で。ネットで見ないと、計画自体が見られない。それから、申し込んだらこれを送ってきたけれど、返すということ。読むのに非常に疲れるような長いもの。本当に市民の声を聞く姿勢があるのかということに疑問に思った。もっと市民が意見出しやすいようにとか、もっと市民が知ることができるようにということであれば、広報に載せて、ひじり館なんかの場合には、パブリックコメントを入れる箱を置いたが、入り口じゃなくてちょっと中に入らないとなかった。皆さんに知らせて本当に意見を求める姿勢が、足りないのではないかと思います。パブリックコメントはガス抜きだ、と言われてガクッとした部分もあったが、それも本当なのかと思わざるを得ないような今の状況。最後に、なぜ図書館の再構築かっていう多摩市教育委員会のプリントをいただいたが、この2頁の中には、図書館運営事業に対する多摩市議会の評価ということで、平成23年度決算事業評価において、右のような内容で評価がされてますという風にして書いてあるが、その中には、最後に箱物≠図書館行政の質、箱物はイコールではないということです。箱物維持が≠図書館行政の質、ということを感じ、建物維持管理だけでも多大な支出を必要とする現状を打開すべきであると書いてあるが、そうするとなんで新しい箱物を作るかという疑問も持った。この最後に、恒久施設としての本館整備と分館の集約化によりとはっきり書いてある。行動プログラムそのものの考え方を前提にして書いてある。これから図書館、読書活動振興計画の策定の過程の中でその大前提となる今後の図書館のあり方についてお示しできるように作業を進めていますということで、この計画ができたんだと思うが、地域館を残すということに対して、曖昧なものであり、全体の計画の中には、本館を作り中央館を作り、その中央館に職員も集約していくという3館集約の考え方で基本的には書いてある。そして、曖昧なところは行動プログラムの中でやっていきますと、言葉を濁している。私はこの計画には反対です。

市民：基本的には、私は、地域館を存続させてもらいたいという立場です。今まで触れられなかったことについ

て、2点だけ言いたいことがある。1点目はお母さん方子どもたち、そういう配慮はこの資料にあるが、私障がい者で、足を交通事故で痛めて、遠くにはいけない。今は結構リハビリで歩いていけるが、遠くには行けない。近いところに図書館があるというのは基本的には大事です。そういう障がい者の人達に対する配慮、それはなくさないで欲しいと思う。それから2点目、私、TOMハウスというコミュニティセンターの図書コーナーのボランティアをしている。今度はコミセンにTOMハウスの図書コーナーみたいなお話がチラッチラッと出るようになった。正直言って、いままでTOMハウスでは厄介者だった読書コーナーが、市の方が議員さんと見に来られたりとか、これとおなじ様なことが和田の方にできたりとか、そういうことがあるのかなとちょっと心配になった。ボランティアを3年近くしてる立場から言わせていただくと、コミセンの図書コーナーは絶対に図書館の代わりにはならない。管理も選書もできません。どういった本を地域の方たちに提供するかというのは、専門職が一定の見識があってそこで選んでいかないと。現在、6人のボランティアでやっている。絶対に図書館の代わりとして、コミュニティセンターは代替にはならないので、そのことだけ申し上げておきたい。ぜひ地域館は廃止しないでいただきたい。

市民：私は、子ども読書推進計画の方の市民の委員をやったり、子ども読書の方から図書館と関わりがある。子どもの読書というと、読み聞かせとか、声を出すことがすごく大切だと思う。図書館は静かな所。大人は黙読ができて、静かにするというが、子どもにとっては黙読というのはとてもできることではなく、声を出すのが普通。乳幼児を連れのお母さん、書架の配置によって、誰でも使える様にと工夫が出てくるが、根本的に子どもの読書というのは声が出る、音が出るのが根本的にあると思う。だから、配置を換えるとか、ひそひそ声でしゃべるということではなく、声を出す場所、声を出せる場所が図書館にほしいなという風に常々思っています。おはなし会をしたりとかする場所も、外からの声が遮断がされるような、声を出せる場所が欲しいと思っていて、そういう必要性を図書館が感じてもらいたい。声を出せる場所があれば、そこへ本を持ち込んで、お母さんと子どもが声を出して本を読むとか、おはなし会をその場でできるとか活用できるので、そういうことで子どもたちとか乳幼児とかが使える図書館にしてもらいたいと思う。

市民：多摩市の図書館のヴィジョンというのが、はっきりしていない。基本方針、運営方針という、だいぶ前に出たのはあるが、よその区町村の図書館だと、図書館は市民に対してどうあるべきかという形の、具体的に分かりやすいのができている。そのソフトができていて、今回の振興計画をどう進めるのというのであればいい。その大元があやふやな中で振興計画進めようと言っても、具体的にいい案が出てこないと思う。だから、本館を作る案でも、まずどういうソフトでという多摩市の図書館のヴィジョンがきちっとあって、それを展開するために、施設をどう作ったらいいのかという展開になればいい。そういう形では多摩市はなかなか考えにくいみたい。松戸市などは、まずソフトを考えて、2年以上整備計画をやっている。最初にソフトがどうあるべきか、そのソフトを生かす施設整備がどうなるかというのを今やっている。これで行ったら、また単に建物できて、中に要望とか具体的にやる前に、多摩市の図書館どういう姿にしたいのかというのが、見えてこない。それが、基本というのが無いと思う。

市民：本館というか中央図書館というか、その時代、いろんなニーズにあった整備を考えるというのは当然で、ちゃんとした方針を明確にすべき。多摩市の図書館という冊子がある。ちゃんと書き込んである。ここで言う、はじめにと、真ん中の14頁とそれから40頁、これはおかしい。以前館長が説得していた内容となにも変わらない。市長は、今図書館については教育委員会の方でしっかり検討していると言っている。ここにプログラムに関連した検討は別なところでやりますと書いてある。そういうキャッチボールは、やめていただきたい。責任持った体制の中で、図書館のあり方論を、しっかりしてもらいたい。市長は熟議と言っている。教育委員会も企画も、ちゃんとした熟議を市民とともにやって、その上で問題を整理してプランニングすればそんなに難しい話ではないはず。本館構想を言えば地域館の廃止が合理的になる根拠

になっている。論理の実態的整合性欠いた論理、世の中にない。子どもだましにもならない。現状では存続していけない、これ、図書館だけじゃない。多摩市政白書でね、パルテノン70億に、80億、もっと膨れ上がると今企画の方は言っている。要するに、メンテナンス含めると、トップ10が書いてある。高々図書館の、維持管理費がどうのという次元じゃない。図書館だけ財政が困って、至急しなきゃならないなんて論理は、市民は誰一人認めません。公共施設全体についての、多摩市が直面している問題を率直に、財政のプログラムとして説明しないと、今後の行政展開、市民の理解得られません。90億不足、プログラムって出してきた、それで50何億不足したまま。問題はお金ですよ。お金の問題は市の存亡含めて、市長部局を中心に、優先順位をしっかりと決めてその中で、図書館について市民に分かって欲しいと、言っていないといけない。なんで図書館だけ老朽化が問題になる、図書館だけではなく全体が、市役所も含めて。市民が立ち上がってからも、3年過ぎていた。だけど、全く反映されてない。作文の論理が全く変わってない。こんな馬鹿なことありえない。教育委員会だけじゃなく、熟議をどういう風にやって市民とどう向き合っているか、スタンスをきちっとした方針として、市長部局を先頭に出して、それで時間を区切るなり、お金の問題も、整理を含めた、プログラムの完成をしっかりと目指すべき。唯一永山が、フリースペースに繋がっていてコーヒーが飲めたり、学習室を独自に作ったり、コーナー作ったりしていろいろなことやっている。けどちゃんと、高齢者のいる時間、女性の多い時間、子どもの多い時間、ちゃんとある種のすみわけ構造やっている。多分あれが新しい、世代的なニーズを反映した図書館。地域は地域でまた違う。パルテノンなくなっても死人は出ないけど、地域の図書館なくすと死人が出ます。実態としてそう。ハードソフトも、こういう機械的な分類論じゃなくて、生活実態に即して、公共施設の持つハードソフトの関係をしっかりと見ないと。へ理屈で、理解しなさいなんて文章はやめていただきたい。図書館長がこんな文章書かされてるようじゃだめ。真摯に問題を、政策的に見つめた方向性をあらためて出して、その上で何回でも懇談会をやればいい。こういうレベルの懇談会いくら重ねてもだめ。多くの人間がこの間声を上げて、問題にしているけど、今回の広報で来る人は稀有。それで、市民の参加、市民に寄り添ってとか、市民の声を聞いてますなんて、言って欲しくない。持つてる多くの人の意見を戦わせて、多摩市の市民の声というものを、行政が責任持って、問題提起して集約して、やるべきだと思う。しっかりと見直していただきたい。

市民：多摩市の図書館の最初の頁には、非常に抽象的な言葉だが多摩市立図書館の基本方針・運営方針が載っている。私は読んで感激した。ただし、この計画の中にこのことについてはぜんぜん触れられてないし、たとえ抽象的であっても基本的にこれが生きているのであれば、こういう考えに沿って展開すべきではないか。これに沿って展開したら、先ほど皆さんがいわれてるようなことが出てこないように思う。それが一点。それから二点目は、40頁の図にも関わることですが、地域図書館を廃止して、身近な施設を活用して拠点館を補完とあるが、この中には、サービスの内容、規模とか、それから候補施設、蔵書内容、業務内容、人員配置、運営等についての具体的なことは書かれていない。図だけこんなものを出して、何も具体的なことについて書かれてないのは、プログラムの見直し次第ですよというのは、ちょっと無責任じゃないか。

市民：最後、要望ですが、やはり皆さん代表して言ってるように、この読書活動の振興計画、これについてはやはり全面的に見直しをしていただきたいと、言うことで一つだけ最後に言っておきます。それから細かいことだが、休憩室がある。あの休憩室で女の人がガタガタ震えながら食事している。あそこで食事できるというコーナーがあることは非常にいいことだが、暖房も冷房も効いていないというようななかで、図書館を利用するときには手弁当で来る方も結構多い。休憩室のコーナー、ちょっと間仕切り程度のもので少しやって、暖房も効かせていただきたい。暖冷房です。夏はとにかく暑くて、汗だらだらこぼしながらおにぎり食べている。とにかくあったかくして欲しいというようなことを要望として女性も言っていた。そんなに費用がかかるものでもないと思うので、やっていただきたい。それから、絵本の読み聞かせの話

が出ていたが、お子さんたちに絵本の読み聞かせをやることは非常にいいことで、本当に集中して聞いている。そういう中で大きな声あまり出せないという話があったが、それも間仕切って、他の方たちに迷惑をかけない程度のボリュームでお話できる場所があったらいいかなと思う。僕も興味があるので、たまに顔を出して、一緒に話を聞いたりするが、このくらい声で子どもたちに読み聞かせをしていると、子どもたちが、声大きいって言って耳をふさぐ。それだけ、絵本の読み聞かせの人達も気を使っているような感じがする。間仕切って、普通の会話の中で我々が紙芝居でなじんだように、少し音を出して、読み聞かせなんかでもできるような環境を整えてやったら、それこそ読書活動の方に繋がっていくのではないかなと思う。その2点ぐらいちょっと考えていただければと思う。あと、食事できる場所は図書館の中ではないです。ここには一箇所、飲料水があるくらいで、他の図書館には飲めるような、設置がない。食事できる場所もほとんどない。そういったところも、今後考えていくべき。飲み食いするのが主ではなくて、あくまでも自分たちの勉強のため、あるいは学習のため、あるいは調べ物のためにそこで半日ぐらい費やすというようなことが日常茶飯事でおきているので、また、手弁当でいらっしゃる方も、大勢いらっしゃると思う。そういった環境整備にも目を向けていただきたい。それは要望です。

市民：人件費の問題というのは、図書館活動についてはあまり強く押さないで欲しいと思う。私は30何年図書館で予約したりしてもらっているが、第一線の図書館の方々は非常に親切です。他市の図書館に比べても。ですから、人件費が増えてるからといって、図書館活動する人が萎縮するのは、私は図書館教育のためによくないと思う。図書館活動の中では、人件費というのは多くかかって当たり前だという発想を、ぜひ館長さんは根底に持っていただきたい。議員さんなんかそういう風に言ってくるかもしれないが、にっこり笑ってさよならすればいいと思う。

市民：こないだ市長が、どこかの懇談会で言ったが、パルテノン多摩はお金が掛かるけど維持すると言われた。理由のひとつとして、パルテノン多摩は文化施設で文化的なこととか教育的なことに対して、財政とか別にやると言っている。図書館もおんなじだと思う。だから本当に職員の方とか、いくらでもではないけど、ある程度、パルテノン多摩に文化施設のお金を使うように、図書館とか教育に対しては、お金を使ってもいいと思う。

市民：質問だが、図書館協議会というのは、図書館長か教育長の諮問機関なんですね。

館長：図書館長のです。

市民：一度傍聴したことがあるが、当然これを検討しました。そこで特に異論は出なかったのか。

館長：いろいろご意見はいただいた。

市民：それを踏まえてこれができているんですね。

館長：ご意見をいただいて、それを全部反映できるかといったらそうでないところもあるが、ご意見いただいて作った。

市民：内容は見られますか。議事録みたいなものは。

館長：公表しています。インターネット上でも。

市民：昨年9月9日に第一回図書館協議会。踏まえてとおっしゃったが、どこを。もちろん、全く反映してないわけじゃないが、図書館の本来のあり方と、そういう部分が、引き継がれてないなど。あんなにいい提言を、委員の先生がなさっているのにどうしてこういう文章になたのかという印象を持った。不思議でならない。見識のある図書館のああいうメンバー選んだ人が、そういう提言をなさっている。専門家がなさってる。それは尊重して考えていくというスタンスで、対応していただきたいと思う。そういうことから、僕の印象では、極めて低い割合でしか反映できていないという印象です。

市民：もう一回確認するが、議事録は見れるということですね。

館長：はい。インターネットで図書館のホームページにも掲載しているし、行政資料室の方にも置いてある。

市民：読書活動のその運営に対して、現状はもう不可能であるということは、果たして本当に議会の席上でそれがそのように言われたのかどうかという確認していただくということだったが、その確認の方法で、皆さん申し込みできているんで、住所を出している。ここにいるメンバーだけでも、その回答をいただければと思う。

館長：手元にないが、戻ればあるので、何らかの方法でお知らせするようにしたい。

市民：さっきも言ったように、ページで違ってきますから、ちゃんと統一していただかないと。外に出たらおかしいですから。それとお願いですが、パブリックコメントをよく市はやるが、今回は貸し出していますか。貸し出しをやっていただきたい。そうでないと、図書館へ来て2時間とかそんな時間取れる方がいても、考えが浮かぶ方は、よほど図書館のことを関わっている方じゃないと出てこない。よその市町村で貸し出しをやっている。1週間でもいいが貸し出しをしていただく、そういうのがあると、家に帰ってゆっくり読んでそれで考えることができる。そうすると、パブリックコメントが、増えてくるんじゃないかと思う。図書館わざわざ行って、それで半日以上かけてやる時間は取れないと思う。だから本当に市民の意見取ろうと思ったら、貸し出し何部でもいいが、置いて貸し出ししてもらえるといいと思う。

市民：資料を返してくれと書いてあったが、できるだけたくさんの方に配るべき。半年くらい貸し出し期間作って、置いていてくれないと困る。出し惜しみして、情報を共有なんておこがましい。勝手に自分たちの出したものだけ出しているけど、これこそ手元に置いてじっくり、あるいは市民の間で一緒に議論して、そういう、セッティングなり考えないと。広報に出して、資料を送ってきて、これ返してくださいって、こんな馬鹿なこと、いけません。教育に携わる人間なんだから、お分かりかと思うが、情報とか認識と言うのは、あたためなければ。

市民：土曜日の6時というのは、誰でも出られる時間帯ということで設定されたのか。私、何人かの人から6時はちょっと出にくいと言われた。意外に夜の時間帯と言うのは出にくいと言う人もいる。

司会：参考までに、どういう時間帯だと出やすいんでしょうか。

市民：例えば、土曜日の午後だったら出やすいと思います。

市民：東寺方も6時から8時は主婦の時間で、出られないと言っていた。

市民：難しいですけど、フレキシブルに、柔軟にいろんな意見を交換をすることを考えないと。世の中で言うアライバイ証明みたいになって。

市民：僕も昨日申し込んだが、図書館窓口の人が、資料はここにはないと。要するに明日ここに来て見て下さいと言う。それで、僕は他のところでコピーして、全部作ってきた。そのやり方は、パブリックコメントを求めるやり方じゃないと思う。パブリックコメントと言うのは、ここで提案されたものを通すための通過儀礼の形式じゃない。パブリックという意味は公的になっていう意味ですけど、基本的には一人じゃないということ。図書館もパブリックです。パブリックコメントのパブリックっていう意味は、考えて皆さんにいろんな情報を提供して欲しいと思う。

出席者 市民19名

職員 館長、企画運営係長、豊ヶ丘図書館長、担当1名

.....

質問及び意見

市民：表紙に12月24日に加筆修正について、40ページから41ページのマークのところを修正とあるが、どこをどう修正してその意味合いはどういう違いがあるのか、まず簡潔に説明を。

市民：何で修正したかも言ってほしい。

館長：修正した箇所、p.40,41の所。拠点館を補完する身近な施設の記述の所、横の四角の中。

それから、一番下の行“施設面からの整理は、別途「公共施設の見直し方針と行動プログラム」の中で明確化“を追加した。

市民：下の拠点館を補完する丸印はこのままですか。

市民：なぜ修正したか、私は議会で報告された図柄を今手元に持っている。全くちがったものになっている。

館長：〇も違う。前は現在の地域館と拠点館を補完する〇が離れていた。今は重なっているが離れていた。趣旨としては、議会の子ども教育常任委員会でも報告したが、非常にわかりにくい、これを出すと混乱するだけではないかというご意見もありて、急遽検討して変更した。できるだけわかりやすくしたというつもりです。

市民：言葉尻ではないが、どういう混乱なのか。

館長：教育長の議会の答弁では、これまでは貸出・返却、予約本の受け渡し予約本の申込みというのが行動プログラムにも機能としてあったが、一定の蔵書や居場所としての機能が必要であると答弁している。その内容とこの計画書を見たときに答弁のように受取れないようなご意見をいただいた。

市民：たとえば7館ではなく3館が前提のサービスの充実なのか、地域に役立つという内容なのかいったいどちらなのか。

館長：P.40の絵でいくと、拠点館を補完が必要といっているが、図書館条例でどう位置づけるかまだ決まっていないが、教育委員会としては蔵書を置いて、図書館的な機能は必要であると考えています。

市民：答弁になっていない。サービスとは何なのか、地域に役立つとは何なのか、あたりまえ前提なり疑問があって質問している。サービスとは何を指しているのか、地域に役立つとはどういうことなのかお答えを聞きたい。

市民：同じ立場の質問かもしれないが、39ページから45ページあたりまで、さらっとよんだだけだが、前半で、多摩市の利用率が全国ですばらしいとあるが、なぜそうなっているのかを行政で分析理解をして、そのうえで今後どうするかを出すのが普通だと思う。どうしてそうなっているか、私が読んだかぎりではほとんど書かれていない。そのあとに老朽化とかあって、縮小する。地域図書館は職員を減らして蔵書だとか減らして、本館とか中央図書館とかに持っていくとP.40,41に書かれている。全国でもすぐれた利用率を誇っているのは7館あることが理由、根拠になっていると思うし、そのことをきちんと見てほしい。

市民：先ほどの質問に答えてください。意見を言ったのではなくて質問ですから。

館長：図書館サービスとはどういうことかということですね。図書館でサービスをどう捉えているかということですが、資料が基本になっていますが、一つには館外へ貸出すること、それから館内でご覧いただくというサービスもあります。それが資料を提供するという一方で、関連して協力貸出ということで図書館にないものを取り寄せるだとか、ということもあります。あとは資料ということではなく情報を提供するということでは、たとえばインターネットの端末があったり、それから・・・

市民：そういう事務的なことではなく、目標につながるという意味、サービス、地域に役立つという意味の理念のこと、どういう理念、目標でもってサービスしようとしているかあるいは、地域に役立つとしているかをお聞きしたいのであって、今のような事務的なことはだいたい利用させてもらっているのだからです。

市民：それは論議になりませんよ。

市民：いや、そんなことはない大事なことです。

市民：質問ではなくて、図書館をやめるのはけしからんという人たちが、市をつるしあげているとしか聞こえない。それは、この集まりの趣旨に添わないのではないかと。はじめて来てびっくりしました。もっと実態についてお互いにきちんと理解することが必要。昔は図書館は閉架式で県に一つしかなくて利用されなくて、利用率がどれだけ高いかを日本の図書館の目標にしようという組み立てがずいぶん昔からされていて、東京では日野市とか西日本では高知市とかやっている。どれだけたくさんの市民が利用したかが基本になり、ということが図書館が全体の市民がどれだけ利用したかのバロメーターになっている。日本の図書館はしっかりやっているけど、世界の図書館は肉体労働者で一日中どれだけ貸出率を高めるか、そういう意味で多摩市の図書館が日本で一番利用率が高いということで図書館員の方も苦勞され、努力されている。それを前提にして話をしないと、全然話がよくわからない。

市民：話が途中だった。

市民：理念を聞くなんて質問にならない。事実を聞かなくては。理念を聞いたなら考え方が違うから。

市民：(館長へ)何かありますか

市民：なぜ多摩市が全国2位というトップに近い利用率があるのかという分析、判断、総括して、振興計画となっている、どうやって振興していくのかを考えるのが、多摩市のプロの方じゃないか。

館長：ご質問の答えになるかわからないが、多摩市はここまで貸出を重視してやってきた、それは重要ですが、いろいろ課題を解決できるような、地域資料やレファレンス、あるいは展示もある。そういったところを今後は充実していくことで、より市民に役立つ図書館にして行きたいと考えている。

市民：それは3館が前提ですか。7館が前提ですか。

市民：ここに書いてある。ゆくゆくは資料をひきあげ、職員をひきあげ、ここをなくすということ。それで役立つ図書館になりますか。

館長：この計画で述べている私の考えとしては、蔵書を全部持っていくとかなくしてしまうことではなく・・・

市民：そこまでは書いてません。ゆくゆくでしょ、その見通しは。私にはそうとしか読めない。

館長：名称が図書館なのか、地域館なのか分室なのか分館なのかわかりませんが、図書館機能としては残したいというのが基本的な考えです。

市民：図書館長としてやられたり図書場で専門に働いて来られて、多摩市のそういう分野に責任を持っておられるから、本心は絶対そうだと思う。間違いなくそういう気持ちでおられることは100%信頼している。多摩市の市民は読書意欲が高いということもわかる。それに正面から応えていくために地域図書館はどうしても残して、読書を振興させるために文字通り振興させるために、多摩市であれば責任者、トップの方が廃止計画をだすというのは本心がどこにあるのか、私は恥だと思う。

市民：中島館長は残したいと仰ったが、この計画は基本的に7館を3館にしたいと言っている。その論拠が合理性を欠いている。たとえば、1ページのはじめに、”現状を存続していくことはもはや不可能である”と断言している。それで議会が存続の決議をしている状況の中で、はじめにのところで議会のもはや不可能であるという23年度の文言をはじめにの前提に据えることがいかなものかという意見を申しあげた。この間プログラムを出して市民からおかしいじゃないかと言ってきた、という実態を踏まえて書かなければいけないことを、23年度議会のことばをご都合主義的にやられては、論理的にも道義的にもおかしいのであってこんなことをはじめにというのは、恥だと申しあげている。全体的に撤回した方がいい。基本問題は結局7館か3館かが問題で、これは図書館長が作っているベースではない。教育委員会が作っているのか市長部局が作っているのか、この哲学を館長が肩代わりして悪者になって説明するような状況自体はナンセンス。そういう意味で問題はちゃんと整理しなくちゃいけない。広報で読書活動振興計画で、市民懇談会をやりますからきてください、と行って普通行きますか。だけど、中身は図書館基本方針の変更計画です。正面から困難があるならば市民に提起して一緒に考えて解決するというプロセスを経ないとうまくいかないし、プロセスを踏まないと結果いろんな問題を残します。図書館長に望むのは7箇所です。やるなら、3館にする痛みを理論的理想的にも実態的にもどう理解するのかということに尽きる。その辺ははっきりしてほしい。読書活動振興計画をそういう目で見ると、いいことはいっぱい書いてあると思うが、〇〇さんが仰ったように7館でやるか3館でやるか、3館にしたいことの理屈に使っているところが姑息でおかしい。現状ならば7館を前提にした読書振興計画が出てこないとおかしい。変更なら変更すればいい、ベーシックなインフラが変更になった時に。公共施設プログラムの検討に委ねますと言いながら、3館構想を前提に読書活動振興計画を書くのはおかしい。市長も熟議だと言っている、市民と徹底的に議論して計画を進めたいと言っている。5ヶ年計画で3月にはもう作りますというのはおかしすぎる。しかるべく熟議というプロセスを経て読書活動振興計画と図書館振興計画とは別にそれぞれちゃんとしたものを作らないといけない。中央図書館にいろいろなニーズに合った改善をやるのは結構だが、それは地域図書館をつぶす理由にはならない。現状を存続することは不可能と言って断言しているが、日本一りっぱな成果をあげている、7館の図書館の行政というのが、誇りと思われている。それをいとも簡単に一行で現状を存続することは不可能であるという、現状って何なんですか。よくみたら施設の老朽化と人件費。施設の老朽化は図書館だけじゃなくてパルテノンはじめ全部の施設のメンテナンスをどうするかが大問題で図書館だけ切り離して施設老朽化だから地域館をつぶしますよなんていうのは政策論としてあり得ない。それから図書館の人員確保をちゃんとやればできないわけではない。まるで他人事に、人がいなくなったから図書館を縮小しなくてはならないという論理これは当事者性をもった行政の統治責任としてはあるまじきせりふです。施設の老朽化の中では、われわれも痛みを伴うこともあるかもしれないが、優先順位をつけて。パルテノンも当初プランニングで出したのは、メンテナンスで80億、この10年ちょっとで。2番目はプールで3番目は・・・これで200億300億メンテナンスでかかる。図書館を全部維持したってただか2億3億の話。これが同じ次元で論じられることは行政の怠慢です。施設の老朽化と職員体制を理由にした論拠は本当にそうならば、トータルに問題を整理して図書館としてどうするかをきっちり論理的に整理したものを市民に提示すべき。したがって、40ページを私が解説するとういう問題があるのではないかと思う。図柄、これ議会で問題になって7館と3館の関係をあいまいにしようとしているからです。これ3館だったら非常に明解な図柄になる。これは3館構想です。館長は蔵書その他を残したいとおっしゃったけど、出ているのはトムハウスにおけるの図書コーナーで、コミュニティセンターの図書コーナーとか高齢者コーナーとか要するにコーナーに図書を置けばいいというようなあるいはコンビニその他に配本所を置きますとかそういう話を言ってきた。公共施設は、行政に管理を委ねているかもしれない

が、これは市民の施設であるので、納得し理解するものに仕上げていく責任は行政にある。この文書はそういう意味で基本のスタンスの見直しと、活動振興計画と図書館のあり方をきっちり分けて、整理したうえでドッキングすればいい。図書館の基本的なインフラの計画があって、そしてソフト論として活動振興計画があるのが普通の組み立て論です。活動振興計画はいい事が書いてあるがそんな新しいことは何も書いていない。要するになくしますということだけを言っている。その論拠で全体の計画を進めるのは私は反対です。

市民：この 2 階で阿部市長さんと存続の懇談会をやった。そこで、40 代前半か後半の方で小学生の子連れの方がお父さんと来た。いろいろ話したなかで私は現職で勤務をしていて、なかなか図書館に寄る時間がないと。日曜日は疲れて駅まで出かける気にはなかなかならない。昼寝したあとひょっとしたらサンダル履きででかけられる図書館が多摩市には近くにある、非常に多摩市に来て良かった住みやすい。引越したばかりだが世田谷にはそういう所はなかった。地域に図書館があるというのは多摩市の貴重な財産だ、一度廃止したら造るというのは世田谷もできないし、多摩市だってできないだろう、これは是非守ってほしいという意味のことを言っていた。最終的にこのことを館長さんにお伝えしたい。私の経験からして子どもの頃からあるいはまた働きざかりの人が読書できるということは知的財産を育むことになる。地域図書館は、有能な多摩市民を育てていく拠点館になっている。なくしてしまうと、多摩市に育つ人たちの未来を摘むことになるし、極端に言えば多摩市の未来をつぶしてしまうことになる。

市民：私は、なぜ今、振興を掲げなくてはならないかわからない。それはどうしてですか。活動を振興しなくてはならないということを掲げなくてはならないということがよくわからない。話を聞くと先ほどから老朽化や職員の問題が出てきたが、職員は養成すればいい。後継者を養成してこなかったからいけない。そういう人がいないから縮小するという、縮小のための話になっている。それと振興が結びつかない。

館長：どうして振興が出てきたか、いろいろ施設の課題があるところで、運営の面で課題があるということで最初検討した。その前提となるところで、文字活字文化振興法に図書館の運営をちゃんとしていきましょうというのがあった。それを課題としようというなかで読書活動についても一緒にやった方がいいのではないかとということで読書活動振興計画という名称が生まれてきたと思っている。

市民：よくわからない。

市民：館長これは法定計画ですか。

館長：法定ではないです。必ずやりましょうというのではない。

市民：何か問題があって停滞していて、図書館活動とか活発じゃないから、振興しなければいけないということですか。

館長：貸出が非常に多く、予約も利用していただいているのは、非常にいい事ですが、それだけでいいのかなというところを立ち止まって考えたということ。たとえば、市民が育つような図書館、地域の課題を解決できるというところの、展示をしたりして地域の課題を解決するという図書館というのが求められているというのがあります。

市民：地域課題を解決することとは、どういうことですか。

館長：たとえば公共施設の問題もそうですが、情報を共有するための展示であるとかも図書館としてやっていく必要があるのではないかと。そういう分野にも手を広げて行きたいというのが趣旨です。

市民：それは部分的な問題。振興計画の全体で、地域館を縮小して資料を取り上げるとか、本館に持っていかう話と全然別。それは館長が思われているのであれば、こんなことやらなくてもできる。私がお立場にいたら、そんな大きなことにしなくたってできること。

市民：純粋な質問で、資料の 46 と 47 ページ。図示が上と下にある、P.46 の利用度について 1 の利用度とすれ

ば他の地域は0. いくつという、しかし全体としては多摩市全体が網羅されている。これは7館、その下は3館になった場合。あきらかに密度が特に豊ヶ丘地区が、密度が低下して0.1未満、10分の一以下になるデータです。何らかの数値を使ってシミュレーションをして作ったデータがありながら47ページに何が書いてあるか、“3館でのカバーの状況を見ると、現在の地域館の周辺など、多くの場所で利用密度は下がりますが、、”これは豊ヶ丘もそうだが下がります、“一方、それを下回るデータが出ている地域があります”豊ヶ丘のことですね、でどうするかが書いていない、どうするのか。広域的に3館を使えばいいじゃないかとも読み取れる書きぶり。資料編においてこういうデータがありながら、こういうコメント、いったいだれが書いたんですか。

館長：これは私が書きました。

市民：本当にそう思っていますか。データを純粹に読み取った結果こういうコメントになると思われていますか。

館長：これはシミュレーションというよりは7館プラス1分室のところから4館引き算したので、引き算したあとどうなるかシミュレーションしたわけではない。ただ、これを踏まえると書きっぷりがおかしく捉えられるかもしれませんが、やはり蔵書は必要であろうというところに結びついている。拠点館を補完するサービスは必要であろうということ。

市民：基本1だれもが使える図書館、基本2子どもへのサービス、3市民や地域に役立つ図書館、館長これどうですか。だれでも・・行けない、場合によったら10分の1になる。子どもたち・・駅前まで行けない、地域に役立つ、そういう観点で、基本目標にてらして館長はどう思われますか？

館長：拠点館を補完する身近な場所としか書いてないのですが、一定の機能は残したいと考えています。

市民：図書館的とおっしゃいますが図書館なのですか。

市民：後ろめたくおもわれませんか。私はそんなことは死んでもやりたくない。

市民：私たちはどんどん歳をとる、ちいさい子どもたちもなかなか駅までいけなくて、年取って杖ついて駅までどうやって行きます？それで、帰り本を持って帰るのです。それが振興か。今こんなに地域館が充実して地域運動もさかんで、もし災害が起こったらどうするか、大きい所に作ったらだれも動けないですよ、地域は。こんなにすばらしい人たちがいる地域、私は今永山にこしてしまいましたが豊ヶ丘、落合って貝取とかすごい。こういうことをみんなでしゃべれることは大事。本当は持って帰って勉強してメモして持って帰りたいのに、持って帰れないんですね。こういう情報を全戸に配ってほしい。上からあれ出せこれ出せって言うけどこういう材料がなければ私たち意見を言えません。いつも図書館のことを考えているわけではなく、毎日仕事をしながら大好きな図書館のために遠くから来た。もう少し賢い方法がないのか。

市民：今おっしゃっているのが地域課題の対応ではないか。ここで書いている地域課題の対応は何の中味もない。中央に引き上げると言っているのだから。ソフト、ハードやめてほしい、こんなソフト、ハードない。公共施設で、建物だけの公共施設ってあるか。必ず、目的と機能を持ったもの。こんなソフトとハードが別々みたいな論議どこから持ってくるのか。地域課題の解決、要するに子どもの問題、少子高齢化のライフスタイルの中で、どういうニーズに注目していくかは図書館行政、社会教育行政のパブリックな認識の責任論がある。簡単に地域課題の解決と言っているけど再三4つの団体で申しあげてきたように、図書館はコミュニティ施設の中でかなり根幹を成す施設。それを安易にあっち持っていく、こっち持っていく、駅に持っていく、その論理を施設の老朽化と職員体制のことしか書いていない。地域課題に十分対応しているから皆さん利用しているし大切だと思っている。コミュニティとしての場のソフト、ハードの両面の複合館の図書館の評価ができていない。でも5つの目標はすばらしいと思います。だけど、目新しいことは何もない。これを実現するときに、駅周辺に図書館を集約するって何なんですか。

地域問題を解決する当事者性のある人が集まってきてここを利用してお互いの顔を見ながらいろんな事

をやっている。その当事者性を失うようなことをやって、地域課題の解決のために図書館をつぶす、地域図書館をなくす、これは論理的に成り立たない。だれがこんな、無責任な判断と決定しているのか、極めて疑問。市長に食い下がっています、あんたの責任だよと。こんなくだらない仕事をなんで職員にさせるのかと。市長もこれ責任持たない。館長だってこれ責任持てないでしょ。存続は不可能だと断言して、つらぬくなんて館長としてできるわけがない。少なくとも5つの目標はいい。ただ40ページの図柄のところで駅に集約するのがいいと言っている根拠なんかない。ミニバスを頻繁に駅まで走らせますか。コンパクトシティの根幹は交通アクセスの整備で、それなしにコンパクトシティで駅に集約すると漂流します。全国津々浦々特に中心商店街の衰退を背景に課題解決っていうことで出てきたコンパクトシティ論でいうと本館は交通アクセスです。頻繁にアクセスして人を搬送してできなければ、全市民的なニーズに基づく計画論にはならない。ニュータウン再生計画にも書いていない。今の交通アクセスを10倍20倍の頻度で整備しなければ現在のアクセスを保障する、生活構造は無理になってきています。そういうことも含めた検証をだれがやるのか、だれがやらないことにしているのか、そういう問題を持っている。このレベルで3館構想だけもっともらしく言っているこの計画を即作りかえてもらわなければ困る。

市民：館長に助け船を出す。前館長の時代は完全に3館で全部つぶしてサービスポイントだった。サービスポイントは消えた。中島館長は図書館として皮は残そうぐらいに後退してきた。財政の人がお金がないから施設をどうしようと言うのはわかるが、同じ役所の中で図書館とか教育委員会とかそういうところがお金の問題からはいっちゃだめだと思う。どうあるべきかということから、それと実際にお金を扱う財務の人とぶつけるなり、あるいは市民が入って市民が痛みを引き受けなければならないんだったら納得して引き受けるという形にすればいい。これは提案だが、これは懇談会でいろいろ批判をあびたから一度引っ込めて、図書館がどうあるべきか、お金、人員の問題は別にしてどうあるべきか。それをするにはどれだけお金がかかるのか、あるいは人間をどれだけ養成しなければいけないのか考えていただきたい。

市民：上の方に報告していただければ、館長の立場は決して悪くならない。懇談会の方から、一般の市民の方からこういう意見がでましたということで話をすすめていただければ館長さんも話が進めやすくなると思う。

市民：今から15、6年前に小学校の事務補助を1年くらいやった。そのとき、司書の先生が学校の図書室の本を取り替えるので、台車でもって1週間に1回、2週間に1回、必ず本を取り替えていた。ここに図書館があっただけだと思ったので一言お話させていただいた。

市民：市の方も3館にしたいのだろうというのはわかる。全部国語でしか書いていない。国語は考え方だから、考え方違ったらすれ違って共通に一致点なんか持ちようがない。熟議する前提は状況を、いくつかデータは出ているが、分館が地域の住民にとってどういう意味を持っているのかきちんとリサーチしたりそれを前提に比べるとか。貝取と豊ヶ丘と地域を限定してその住民がどのぐらいカードを持っていて過去1年どれぐらいの人が貸出をして、それが生活の中で図書館の持つ位置、数字をきちんとださないと。考え方が違うからけしからんと言われても困る。最初から一致点なんかない。今日聞いていても一致点のない議論、全市民レベルではできない。考え方の違うひとが考え方の違うことを言っている。熟議をする上ではきちんと国語じゃない、事実を明らかにしないと。賛成している人も反対している人も共通の土俵で論議できて、検証できるようなレポートなり研究をして提案してもらわないとだれも論議に参加できない。全市民が参加できる論議にしなければどっちにいても不幸。豊ヶ丘の市民の生活のなかでの図書館の位置づけ、役割、それが他のところと比べてどうなのか、市民がどれだけ大切に利用しているか、きちんと説明してほしい。そうであれば、論議は前にもっと進むのではないかと。多摩センターに図書館を移すのは大賛成です。〇〇屋には朝から高齢者が大行列している。みんなどこへも行かないわけではなく、行っている、シ

ルバーパスを使って。駅に図書館が通勤帰りの人も利用される。一番よくないのは本館があんな所にあるから。利用率を高めようと抜本的に考えるのであれば本館の移動も大きな対策になる。

市民：だれのために図書館を7館にするか。これがはっきりしていないとだめになると思う。未来の子どもたちのためにある。子どもは愛され、教育を受けその命を守られなければならない、ヤヌス・コルチャック先生これ、本当です。未来の次の日本背負うのは子どもたちです。子どもたちのためにやる、そういったはっきりした目標がないと自分中心にものを考えますから。だれのためにやるか、スローガンを出してそれに向かって行かないと枝葉のことでそっちの方に流れる。未来の子どもたちのために教育のためにあるんだと。ヤヌス・コルチャック先生じゃないけど憧れをもって、今現実的に実現していなくても近い将来必ず実現するだろうと。はっきりスローガンを出してください。

市民：是非館長にがんばっていただいて、多摩市の図書館のあり方を冷静に市民にとってどうしたらいいか、そういう立場で是非思い切ってだしてほしい。策定委員会の要綱を見ていると、具体的なプロセスとしてこの市民懇談会は要綱に基づいてやられていると思うが、いろんな意見が出されていて、そういう場合策定委員会としてはどういうプロセスで書き直すということがプログラムされているのか、館長は委員長であるのでそういうことができるのならば、是非やっていただきたい。

市民：策定委員会で書き直すことをとりあえず期待している。40ページのイメージ図は、全文書き換え。41ページ、全文書き換えてほしい。最初の市議会の事業評価の“・・・現状維持していくことは不可能・・・”いつも出てくるが、市議会の平成23年の事業評価、これは地域図書館をなくせとは言っていないと思う。あの時はちょうど政権交代で、事業仕分けの中で出てきたことであって、あれから5年経っていて、図書館問題について、議会の今の態度はどうかというと公共施設の行動プログラムの見直しを、図書館の存続の陳情を豊ヶ丘は採択、他は趣旨採択したというのが今の議会の判断。もし、前段で議会の評価を書くのだったら、15千人の地域住民から陳情が出てそれを市議会が採択、趣旨採択したということを両論併記すべき。

館長：中身を二つに分けて作るべきではないかと、ご意見をいただいている、今の段階でこうすればいいと思うとは言にくいところがある。誤解を招くところを、本館は必要というのはありますが、そこだけを残し、運営面について読書活動振興の面だけを残した形で修正するというやり方もあるでしょうし、そもそも検討し直しということもあるでしょうから、揺れが大きすぎてなんとも言えない。

市民：3月に、皆さんの意見を聞きましたから、意見を聞きましたけど、このとおり進めますということはあり得ないと、私はそれは当たり前と思う。そう理解していいか。

館長：このまま直さないでいくのは無理だと思う。

市民：3月に決めるっていうのは無理だ。

市民：市長部局は、28年度夏以降、秋くらいまでに当面の行動プログラムの見直しをしたいと言っている。読書活動振興計画が3月ということはない。教育委員会だけ3月と走っても結構だが、われわれは市長に対して抗議をします。市長が言うことが正しいと思って聞いていると違うことが出てくる。教育と名のつく部署でそういったことがやられるというのは、TPP、多摩市のピンチ、ピンチという。

市民：教育委員会というのは多摩市の行政とある意味独立しなくてはいけないと思うが、違うか。

行政との関わりは教育委員会はすごく重みがあって独自に態度が貫けるところだと思っているが館長さんの理解はどうか。

館長：独立というと難しい所があるが、市長部局と教育委員会があり、教育委員会が決定することはある。滋賀県でいじめの問題あったが時から議論が進み、総合教育会議というのが多摩市にあります、市長と教育委員会と話をしていく中で決めていくということもあるので、独立してまったく関係ないという訳ではな

く、市長とも議論していくことがある。

市民：教育委員会の考え方と市長の意見が違った時に市長に擦り寄るとか擦り寄らなければいけないのではなくお互いには話し合うのが当然。教育委員会はすばらしい委員会なんですから、その辺がどうなんだという本心のところ聞きたいし、頑張ってもらいたい。

市民：策定委員会の話の中で、ふり幅がすごく広いからそう簡単に答えられないし、かなり早めなければならないとお話がありましたが、実際に学校法人の土地を売る売らないが射程に入っているし、本館の土地をどうするかということで本館の計画を考えなければならない。7館なのか地域館をなくすのかで本館の位置づけが変わるのであれば、決まっていないうり幅の広い対策をしてほしいし、その本館についてぜひいろんな思いを持っている住民の意見が入るように策定委員会、検討委員会なりをオープンにしていきたい。

市民：40ページ、41ページ、議会評価に対して住民の陳情、議会の採択の結果を策定委員会に入れてほしい。

市民：表紙の多摩市教育委員会と責任名が出ている。どういう段取りでこういう名称入れたのか。

市民：教育長が教育委員長を兼任している。教育基本法の改正で、首長が教育にもっとコミットするということで制度改革をやったのけた。

市民：かなり、制限はある。それから教育基本法ではなく、“地方教育行政の組織及び運営に関する法律”というので、教育委員会は理念的には独立すべき。でもどんどん任命制の教育委員になるし、お金は実際は行政が関わってくる。本当は独立すべきなのに必ずしも独立できないからあるべき論は前面に出してもらわないとどんどん行政の意向で動いていくことになりやすい。

市民：多摩市には自治基本条例ができています。市民と共に市政を作っていくとされている中で、子ども読書推進計画では市民の市民連絡会というのがちゃんとできていて、策定委員会が行われて、法的に作りなさいという計画になっている。それをこちらに統合するというのがここに言われている。これは必ず作りなさいとは言っていない計画。作っているのは全国でそんなに多くなくて、17市町村でできているってということで、図書館が少なく、非常に厳しい状況の中で、一人一人の読書を推進していきたいという自治体の思いが反映した計画として作られている。八王子、横浜、三郷市ではある。あるにこしたことはないが。この計画は、分散から集中へと7館ある中から3館になって、なんでそれで振興できるんだろうと。そんなに3月にできるのですかと気になっている。この計画が非常に問題があるということで、市民からいろんな意見が出ているとすればぜひそれを取り上げて市民連絡会のようなもので私たちも入れてもらって、計画を練り直すことをしないと自治基本条例に違反するものができてくる。地域の課題を解決すると言いながら、後退するというような計画、歴史的にみれば後退そのものでそんなふうには絶対なってほしくない。

市民：これ回収するのか。はじめてこれ見る。62ページあるが、説明されたけど字づらを追って、めくっているうち終わってしまう。理解していない。どうしたらいいのか。

市民：100部でも200部でも刷ればいい。手元に情報を届けなくて、情報共有なんていう言葉は全部削除してほしい。

市民：政策情報紙は全戸配布した。

館長：まだ、変更の可能性のあるものを100部印刷するのは無理。今日は、持ち帰っていただいて構わない。

市民：懇談会ということで、ずっと話が続いていて、進行がだめすぎ。多少、ファシリテーション的なことをしないと話す気がなくなってしまふ。昔多摩市にすんでいて戻ってきて日が浅いので、経緯わかっていなくて、遠巻きには多摩ニュータウンの問題はなんとなく知っているつもりはあるが、中立的にみても評価できない。ここをメインに使っている方々は豊ヶ丘がどうなるのわからない、わからないように書いてある。

一つめは、わからないように作ってあるということはなくすのかなど、あとは、新たな本館がめざしている拡大図、本館、拠点館あたりなののことかなということになる、外面をよくして、あとどうしますかというのが書いてなくて、二重の意味で評価できない。もう一つネットとかを見ている、分析が全然足りない。いろいろ分析していないのか、見せないのか、私は調査会社に勤めていて、もし手が足りない時は声をかけてほしい。

市民：議会で市長は、7館構想をあらためて3館にすることについて、最初の案についてはなるべく早いうちに、冬までに修正案とか修正して意見を出すことになっていた。市長や上の人から今、どういう指示で言われているのか。

館長：市長からの直接の指示はない。図書館として分析して情報をあげていく方がほとんど。ふだんは教育部長と話をしながらやっている。読書活動振興計画が、自分が着任した時は止まっていたのでまとめたいたなど自分なりに考えてやっている。

市民：7館構想から3館にするためにいろいろもっと考えなさいとは言われていないのか。

館長：言われていない。

市民：広報に12月20号市民懇談会のことが載ったが、その前日公共施設の見直しプログラムで極めて市が重要視していたワークショップがあった。その午前中、豊ヶ丘の市民ホールで複合館の存続に関する市長との懇談会があった。ここには館長はいなかったが、ワークショップは説明した。でも、その時に、市民懇談会が明日広報に載って、皆さんの意見を聞きますなんてことは館長は何も言わず、翌日の広報をみてみんな知った。しかも計画案は、返してください。図書館に来たら1冊しか置いていない。これを15日に出して16日から懇談会やります、パブリックコメントやりますなんていうのは、はっきり言ってアリバイ作りと言わざるを得ない。館長がわざわざ言わなかった。この基本方針の前半で言っていることに反するようなことを、ただかかあと2ヶ月で決めるなんていうのは手続き的にだめ。少なくとも、決定は先延ばし。40ページ、41ページ、議会の評価、今日の議会評価を加えるように全面的に書き直してもう1回広く市民に問いかけて市民に中味を知らせる、そういう機会を設けないとファッショにつながる、市民自治基本条例にまったく反する、図書館の職員の意思にも反する。そこは館長、しっかりと腹を決めてやってほしい。少なくとも、3月末までなんてだめ。

市民：本来はそうですよ。でも決めるなら決めていい。市長は市長、企画は企画、教育委員会は教育委員会とばらばらにやりますとちゃんと声明してほしい。議会が存続を決めようがどうしようが行政は自分たちの裁量でやりますと高らかに宣言してほしい。市民自治基本条例を汚すようなことばかり。そうしたら我々は対応を考える。

市民：やるのは構わないけど、やらなくてもできることばかり書いている。だから改めてつくる必然性は誰も理解しない。われわれだって図書館いじくるみたいだからと来ている。このために館長仕事させられている。こんなばかなことを教育という名のもとにやっちゃいけない。

市民：23年度にできた基本方針、運営方針は今もいきているはず。行動プログラムができた時にあれがうやむやになりそうだし、今回の読書振興計画でかなりうやむやにされそう。運営方針に添って図書館内で実績をだしているといったが、なぜそれを公表しないのか、人件費がどうなっているか、人件費が多くなって資料費が少なくなっているということも、そこに因果関係があるっていうのも疑問。

館長：うやむやにしているつもりはなかったということだけはしておく。

市民：5つの方針はいいが、問題は7館から3館にする理由にしているのが論理的根拠がない。実証的、実態的にしっかり問題を整理してそれで市民に提起して理解と納得を得るという手続きを踏まないと、前にいかれない。強引に走るなら高らかに宣言してほしい。市長は市長、市長部局は市長部局、自分たちの責任に

おいて7館3館にするとかしないとか。議会の採択とかは実践的には意味がありませんとはっきり言ってくれないと冗談じゃない。

市民：策定委員会は公開になっていない。今回のように大きな問題は市民の協力がないと、まして振興計画は市民が主役ですから市民がその気にならないと。これだけ問題がこじれているのですから、策定委員会のアフター会のように市民と一緒につくっていくというふうになっていくといいと思う。よその市で、市民と一緒にやってつくっていくものはうまくいっている。策定委員会が公開して傍聴ができれば、すごくいいな。それこそ自治基本条例が生きていくんじゃないか。

出席者

市民 41名、報道機関取材 2名

職員 図書館長、企画運営係長、企画運営係1名、聖ヶ丘図書館長

.....
質問及び意見

市民：説明の中で、よく国の基準が出てくる。この資料の中にもかなり使われている。例えば、文字・活字文化振興法という法律。国の法律でそういうことを振興するために、それに基づいて国から来る予算はあるか。

館長：図書館に関して、例えば補助金等はない。多摩市は不交付団体なので、地方交付税交付金もない。

市民：一番最初の説明のところ、平成23年度の市議会の決算審査の事務事業評価がこの計画のトリガーであるかのような説明があったが、そうではない。その前に市のほうから教育委員会に対して投げかけをして、それに対して出てきたのが決算委員会の評価だったと思う。

館長：おそらく唐木田の委託のところか。

市民：事務事業評価で現状のまま維持するのは難しいというのが出たのは承知している。そのこと自体がこの計画が策定されたトリガーであるかのような説明があったが、そうではないのでは。

館長：過去の経緯がもしかしたら不案内だったかもしれないが、私の認識としては、行動プログラムが一つのトリガーなのかなと思っている。その前に、運営の面についても課題が提起されているということで申し上げた。

市民：今、行動プログラムがトリガーと言った。行動プログラムのトリガーというのは要するに多摩市の財政が厳しいからということか。

館長：そう。

市民：財政を助けるためにどうやって節約するかと言うのがこの会の目的ではないか。

館長：いえ、この会は、それだけではない。

市民：それもある。財政が厳しいから、トリガーができた。その財政を図書館運営事業で、節約する必要がある。違うか？

館長：そう。

市民：助けるに当たっては、運営費をいくら節約とか何%節約とか、数値的な目標は出ているのか。

館長：図書館についてどの程度というのは、特にはない。

市民：特にはないというと、できるだけ節約しろという指示か。

館長：行動プログラムも一つのトリガーだと思う。議会の評価というところもあり、唐木田の図書館を開館する際に、職員が確保できなくて委託にせざるを得なかったところもある。いろいろトリガーはあると思う。財政的にここまで落とすべく節約せよというところで、図書館に限ってここまでというのは設定されていない。

市民：節約せよという指示がなければ、なにも今あるものを後退させたりやめたりしないで、充実を図るとか、少なくとも現状維持するとか、そういう方向で考えないのか。

館長：市全体としては、今後例えば社会保障の面や、非常に歳出が膨らんでくるという見通しがある。現状を維持していくのは難しいというのが、図書館だけでなく、市全体としてそう考えている。

市民：あらゆる事業で、節約できるだけ節約しろという指示が出ているということか。

館長：あらゆるところで節約せよということではなく、例えば行動プログラム、こういう形でこういう部分についてやっていこうという、市としての考え方を示している。こういうところを節約していったらどうかと示しながら、今後決定していく。

市民：節約することが、図書館や福祉館や、公共施設のことについて非常に具体的な手段として書かれている。例えば収入が減ったら、節約しろという。いくら減ったかという数値があっていくら節約しろという指示を出す。いきなり、行動指針が出てくるというのはおかしい。例えば、安倍総理大臣でも日銀の総裁に言うときに、具体的に公定歩合を引き下げるとかマイナスにしろとか銀行券をたくさん印刷しろとか、そういう具体的な指示は出さないで、数値目標を出すと思う。例えば、2%のGDPの目標だとか、9%の物価の上昇とか。多摩市の財政が問題になって、具体的な図書館を減らせという行動方針ではなく、お前のところの事業はいくら減らせという指示を出さないと、いきなり図書館行政の中に突っ込んでこられて、館長としても心外ではないか。

館長：この計画以外のことも多分いろいろあると思うが、市全体の財政的に厳しいというところを全部この計画で図書館部分について解決しようとしているわけではない。今日全部を説明するのは難しい。

市民：このいい計画が、どうしてそこでひじり館の図書館がなくなるのか、読み続けてもぜんぜん分からない。質問が2つ。パブリックコメントの意見は、差し支えない範囲で公表されるのか。それと、パブリックコメントを受け止めるというが、うん分かりました、でも私たちはこの通りやりますというのが、だいたい政府のやり方で、散々意見言った割には何も反映されてないのが多い。ちゃんとやるのか。

館長：パブリックコメントについては、計画書ができたときに、ご意見とそれに対しての市としての考え方も含めて公表していくことになる。それから、ご意見を反映するつもりがあるのかというところで、地域館存続というご意見をたくさんいただいているし、この計画の名称や、3月までに決めるべきなのかなど、いろいろいただいている。これだけいただいたのを全く何も修正せずに決めるというのは、できないと思う。私が一人で考えるわけではなく、策定委員会や教育委員会で決定していくが、非常に強く受け止めざるを得ないというのが今の思い。

市民：これはいつ頃完成されて、どこへ行ったら見られたのか。

館長：今お手元にある原案というのは、12月20日号の広報で、市民懇談会やパブリックコメントの記事をあわせて出している。そのときから図書館には1冊置いていた。ただ、1冊あってその場で読めというのかというご意見もいただき、何冊か貸し出し用に作ったらどうかというご意見もあったりが、今回、市民懇談会にお申し込みいただいた方には、あらかじめ郵送でお送りするという形をとった。ということで、原案については12月24日に修正しているが、インターネット上への掲載、それから図書館に置くということは12月20日にしている。

市民：2つ質問。この、懇談会をやる目的はどういうことか。それからもう一つは、今回の振興計画は行動プログラムで示されている3館集約を前提にしているが、行動プログラムは実施が最終的に決定されているものではない。これは市長も明言している。なぜ、その決まっていない行動プログラムに沿った振興計画になっているのか。どなたの指示で、計画を作ったのか。

館長：この懇談会の狙いは、計画については庁内の策定委員会が案を作っているが、市民のみなさんからもご意見をいただきたいということで、この計画については身近な図書館のサービスや運営というところなので、直接ご意見をいただきたいということ。それから、この計画の策定の指示については、図書館長が策定委員会の委員長になっており、私が引き継いで、これまでどおりの形でこの計画を策定するという形で指示を受けて、私が策定している。

市民：質問の趣旨と違う。行動プログラムっていうのは最終的に実施が決まっていない。にもかかわらずそれを

前提に計画を立てているというところが分からない。振興とは、これからもっとよくして行こうということ。ところが地域図書館なくなって、振興になるか。そういうことと、私の質問は、表裏になっている。行動プログラムはプログラム、振興計画は読書を振興させるために何やったらいいかということ。そういう疑問。

館長：行動プログラムは、25年の10月に出たかと思う。そこでは行動計画ではなくプログラムということで、皆さんと検討しながらどうして行くかは決めていくとされている。それを受けてこの計画の中でも、40頁の図にあるような配置のことをいっているが、図書館としては、どういう機能が必要ということとをそこでは述べている。貸出、返却、予約の申し込みということが書いてある。図書館としては、やはり図書館のサービスですとか運営を考えていくと、本当にそれで良いのかということも、見解を述べていく必要がある。これは読書活動進行計画なので、行動プログラムに対する答えだけではないが、図書館としては、例えば蔵書も必要ということとを述べている。そういう図書館のサービスという面で、その答えを返していく。それを元にまた行動プログラムを28年度以降また検討されていくというふうな組み立てを考えている。

市民：お尋ねとかみ合っていないが、他の方もご意見あるでしょうから、質問のところは以上で。

市民：説明の中で6歳から11歳の子どもの話が出てきているが、この場にはほとんど高齢者が来ている。そういう人が使いやすい図書館の検討は、この会の中でやっているのか。高齢者に対して、図書館がなくなって車で行きなさい、電車で行きなさいというような話がだが、ものすごく使い勝手が悪くなる気がする。その辺は、会議の中で我々の年代を対象に、議論があったのかどうか。

館長：突っ込んだところまではできていない。実態を見ると、雑誌新聞を見るところはかなりにぎわっている状況がある。永山図書館も雑誌新聞のコーナーというと非常に混んでいる。本館では貸出の利用者数以外にも、入館者のカウントを取っている。本を借りるだけではなく閲覧だけに来る方も多くいらっしゃるというところを検討はしてきた。

市民：関連して。46頁の説明で3館に集約した場合に、聖ヶ丘なども低下している地域になる。こういう地域にも、図書館機能が必要と言われた。この中ではそのことは具体的な提示はされていない。40頁の図にも点線でこのような形になっているが、地域館を残すということは言っていない。枠が小さくなっているだけ。一番最初に示したように、行動プログラム次第だという。館長自身は、これを策定した責任者でもあるので、どのような補完の機能を考えているのか。

館長：47頁のところ、下から2段落目のところに、先ほどの図とも関連して、拠点館を魅力あるものにさらにコミュニティセンターなどにおける、拠点館を補完するような機能により、全域をカバーしていく検討が必要です、とある。以前のこの計画の中では、小規模な拠点をたくさん作るとあった例えば、小学校の図書室など。私としては、街じゅう図書館という取り組みをしている自治体もあるが、お店に本を置いてだとかよりも、コミュニティセンターなどにある程度まとめて機能をおいたほうが良いと思っている。ただ、具体的にどのくらいの割合でとか、冊数でとか、私だけではお答えができない。これは、今後皆さんとも話し合いをしながら検討する項目かと思っている。

市民：拠点館も残し、かつ、今図書館がないコミュニティセンターにも図書コーナーを作るということか。

館長：必ず作りますというところは、言えない。この地図で例えば、愛宕地区などは図書館がなく、関戸と本館を使っている方が多い。バスで行かれているのかと思っている。そういうコミュニティセンターに本を置くとか、連光寺地区も地図上で見ると、配置的に見ると遠い。そういったところもいろいろ考えながらやっついていかないといけない。

<意見>

市民：この地域図書館を廃止するという問題が出てきた中で気になっていたのは、こういうことを決める上で図書館なり教育委員会というのは、どこまで自主性や権限を持ってやってきたが、どうもすっきりしない。公共施設の90億足りないということで、公共施設を縮減するという行動プログラムができた中で、地域図書館の廃止というものが出てくる。それまでの図書館の基本方針というのは違ったと思うが、それが大きく転換したのが、平成26年の夏の教育委員会と、その中で教育委員会から図書館に意見を出してくれといわれて、図書館協議会などで検討して、地域図書館をなくさないほうがいいということと、廃止して集約しても良いという両論併記を教育委員会に出した。ところが教育委員会の方では、両論併記では判断に困るから一本にまとめなさいということがまた出されて、それを当時の館長が受けて、そのあともう一度教育委員会に出したのが廃止ということだった。その議事録をずっと見ると、自主的な判断というのはなくて、地域図書館廃止ありきみたいなことで降りてきたような印象を持っている。そういう中で、41頁で、本計画の方向性を行動プログラムに反映していくと書かれているが、権限があまりないように見える教育委員会なり図書館が、行動プログラムの変更のところにこの計画を反映できるのか、そこがよく分からない。そこが見えないと、こういうところの討論なりパブリックコメントっていうのが全部空討議になってしまう。市の側からすれば、皆さんの意見を聞いたという実績作りになってしまう。変な構造が作られるのを、多摩市の市民参加を考えると、非常に悪いことになるかと心配。そういう意味で、何が担保されているのか伺いたい。

館長：行動プログラムの方針については、昨年もアンケートを行いワークショップという形でもやった。今後も、市民の方々から直接ご意見をいただくような場も設定されていくかと思う。今回のご意見について、どう担保されているかということについては、私としては重く受け止めて、行政管理課、教育委員会、市長部局に伝えて行きたい。

市民：2点ある。1点は、行動プログラムの中で、図書館が真っ先に狙われたっていうことに対して疑問を持っている。コミュニティ施設のようなところは団体利用に対して、図書館というのは個人利用がメインである。そういう意味では政治力が一番弱いところが狙われたみたいな、そういう印象を持って疑問に思っている。それは感想。2番目は、図書館というと今まで子どもの視点が非常に強かったと思うが、高齢者の居場所みたいな面もむしろ強くなってきていると思う。高齢者といっても、団体に入っているアクティブな高齢者もいれば、団体に属さないような人達もいる。そういう人達にとっての居場所というのは多分図書館で、非常に重要な位置づけと思う。そこが新聞雑誌みたいな色彩が強くて、それでは魅力がない。諏訪の商店街の脇にある市の施設にも、図書コーナーがあるが、ぜんぜん魅力を感じない。蔵書の魅力が居場所にとって重要。居場所機能については別途検討ということになっているが、社交性のない高齢者も居心地のいい場所をぜひ考えていただきたい。

市民：拠点館を補完するのに蔵書が必要だということで、コミセンに置くということも明記されているが、蔵書と言っても、貸し出しサービスとかレファレンスサービスのない、蔵書だけ置くだけという意味か。図書館法に基づいたものではないということか。

館長：まだ、そこまで検討していない。個々に考えていかないといけないかと思う。レファレンスサービスがあるかないかとか、職員の体制としてどうなるか、ここでは明確には申し上げられない。

市民：振興だから読書サービスを図るというのは図書館活動の一番根本の問題だと思う。地図を見ると逆にサービスが低下するのを明らかに認めている。私も署名。市長にも説明を求めた。図書館を応援してそういう署名活動をした。図書館長としてどういう風に受け止めているのか非常に疑問に思う。深刻に受け止めているとすれば、市長とか教育長に意見具申するのが筋ではないかと思う。

市民：読書活動振興計画は、8月のバージョンから、12月の頭のバージョン、それから一番最新の12月

24日、変わってきている内容もずっと全部見ている。読書活動の推進という計画書になっていない。3館集中ということで4館は廃止、非常に使いやすいというその部分が根幹から落ちてしまうのに、それに対してどうするということがこの中に具体的に書かれてない。ですから、5千通くらいの地区だけでも署名があったり、4館合わせると1万5千通以上の署名が出てくるというのは、もう少し重く受け止めていただきたい。その読書振興という形でいろんないいこともいっぱい書かれていると思う。しかし中央館作るから、地域館を犠牲にして削るしかないという風にしか見えない形になっている。今の分散システムの中で、どうしていくかというその改善案をやっていただければ、もう少し建設的な前向きになると思う。ところがやめる、サービスポイントという本当の受け渡しから、そのうちに子どもの図書は残してくる、だんだん蔵書までしていかななくちゃいけないと。まだ3館集中ありきというような、出し方をするから、みんな納得しきれない。署名活動をした人達も終わらない。3月末までに完成させるというからには、やはり廃止の旗は降ろしていただきたい。分散システムで、どう改善していくかという案をやっていただきたい。

市民：意見を述べる前に質問がたくさん出たというのは、それだけの理由があると思う。いったい何を狙っているのか、はっきりしない。ピントがずれているような書きかたになっている。国の言ってるような基準には、これだけ金がかかるんだよということを言いたいのであればこれでもよい。ところが、多摩市の直面している問題の解決のためのものであるという立場で読むと、託児所をなくしたり幼稚園をなくしたりしている市が、なんでこんなことをできるんだろうかと。図書館の、コンピュータシステムを言ったり、資料のデジタル化をやったり、国の基準に合わせてそうやらなければならないんだとすれば、とんでもないこと。できるはずがないと思う。だから、国がそういう法律を作って言うてくるならば、それなりのことをしてくださいということを出せるような、資料をまとめる必要があると思います。15頁の15行目に書いてあるが、市議会は具体的な処方箋を描くべきだという指摘をしている。国の基準に合わせるためにはこれだけ金がかかる。しかし、これからの多摩市の税収などを考えていって現状維持するにはこれくらいかかる、そのためには、こうして変更していきたい、皆さん納得してくださいという形で出さなければ話にならない。そこ点をきちっと分けた資料を作って、それぞれについてパブリックコメントを求めていく形にしていきたい。もう一つ、14頁の11行から12行に書かれているように、図書館が分散してしまっているために一度の来館で必要な資料が得られないという風にしてあるが、これは利用者の方に問題がある。あらかじめ必要な資料は図書館に尋ねて、分散しているならば一箇所にとまとめていただき、一つの場所へとりに行けばいい。一つにとまとめるというのは理由にならない。利用者も図書館の利用の仕方をもっと学ぶべき。もう一つ、私ももう80になるが、駅の周りの図書館のみ残すということになれば、高齢者を無視した話だと思う。80にもなってくると、ここの聖ヶ丘図書館が一番必要なものだし、ここでお願いすれば取り寄せてもいただける。その、老人に対する配慮が欠けている。

館長：こういうものを議論するときに、これについてどうですかという風にならないと、市民同士の議論にするにしてもなにかの事実に基づかないと、というご意見はいただいた。

市民：2点ある。1点は、最初の方の計画の目標像というところ。基本方針と運営方針は、とてもすばらしいものだと思っている。この振興計画が、この多摩市の基本方針と運営方針と、乖離して行くという危惧を覚えた。この基本方針と運営方針ができた当時の図書館協議会の答申があるが、その中でこういう言葉を使って地域図書館のことを記述している。高い機能を持つ中央図書館は必要だが、各地域にあり市民の身近な利用に供される分館も変わらず大切である。むしろ中央図書館による分館の支援が強化されることで、身近な窓口として役立つ分館の信頼が高まり云々かんぬんとなっている。40頁の図にしても、補完をするって言葉が使われている。答申の中で使われてる言葉は補完ではない。地域図書館が大事だ、大切だということを訴えている。そこをきちっと酌んで、振興計画というのは作られるべきではないか。

それから、2点目。この計画は凍結していただきたい。どうしてかという、この実施が28年の4月からの施行になっている。それはいくらなんでも乱暴すぎる。市民に提示されて、この地域の方も今日知った方もある。やはり議論の時間をとっていただきたい。半年かけても1年かけても、みんなが納得できるような。一言で言えば地域図書館をなくさないで欲しい、この聖ヶ丘図書館をなくさないで欲しい。ぜひこの計画を、議論を踏まえるということで凍結していただきたい。

市民：2点ある。ベビーカーに赤ちゃんを乗せてお母さんたちは図書館にやってくる。車のある方ばかりではないと思う。乳幼児のお母さんたちがベビーカーで行ける図書館。それから、6歳から11歳の子どもたちが、身近にある図書館は使うけれども、永山とか桜ヶ丘とか本館とかができても、一人で行くことはできない。多摩市の場合は、自転車であれば簡単に行けるが山坂があるので難しい。この聖ヶ丘図書館ができてから、聖ヶ丘図書館以外はほとんど使ったことはない。子どもたちに読み聞かせをする絵本を見つきたいときとか、自分で図書館で本を見たりとか、実際に聖ヶ丘図書館があるからこそ、今まで生活できたと言っても過言ではない。40頁に拠点館を補完とあるが、その辺がすごくあいまい。先ほどから蔵書も置くと発言されているが、やはり図書館は人が必要だと思う。本館ができることによって職員がいなくなれば、本があるだけで何もなし図書館は機能しなくなる。おはなし会とか、子どもと本をつなぐという活動をしている者にとっては、職員がいなくてそういうサービスはどうするのか。本館まで乳幼児を連れてお母さんたち行くのか。永山に行くのか。やはり図書館としての機能はなくさないで欲しい。

市民：6頁に書かれているところで、多摩市の方は集中化していくが、近隣の調布だとか府中にいくと逆にものすごく数がある。なぜ、周りのところは、地域にみんな中央館のサービスを提供しようという風になっているのに、多摩市だけは集約してくる、そのところがどうも説明の中でない。市民のサービスからいって、府中でも調布でも同じような動きがあるのか。

館長：自治体によっていろいろな形があると思う。26市でいうと多分似たような感じのところだと思う。地方の都市に行くと、大きな中央館があって駐車場がものすごく広いなど、いろいろ。調布を見ると、中央館がある。うちが地域館で500平米とちょっと大きい。調布だと200平米だったか300平米だったりというところもある。

市民：サービスするのであれば、小さいコミュニティセンターに作っていけばいいと逆に思う。今、逆方向に進んでいる。検討していただきたい。もう一点、14頁で、中央館が老朽化という経緯になっているのか。

館長：本館については、暫定活用で、もともと中学校だったところを、空調など一部増設して使っている。

市民：ひじり館も老朽化しているのか、その中から図書館だけがなくなれば老朽化の問題が解決するとはとても思えない。そこは明確にしていきたい。それからコミセンで図書館だけがなくなったとしても運営していくお金はかかる。お金を安くするために中央化していくという話をしていたときに、新館を建てるとなったらそれだけの建設費と運営費がかかってくる。そのバランスのことが全くなくて、ただ作り直すという方向だけで行ってしまうと、いったいいくらのものが作られようと考えているのか。人件費を一人二人減らすだけで、賄える物とはとても思えない。本館のイメージの具体的にしたものが出てきてくれないと、廃止という方向に対しては問題がある。

館長：本館の必要性ですが、本館の持っている機能としては、本を選んだりというのは、今本館でまとめて集中的にやって、それを各地域館に配っている。雑誌も本館の方で受け入れて、装備をして各地域館に置いている。協力貸し出しも、本館でまとめてやっている。本館というのは、地域館を支えていくためには必要だと思っている

市民：この計画の策定委員会のあり方そのものが、納得がいかない。市役所の課長級でいろんな部署の方で集まってこの計画の策定の作業をしてきたとのこと。本当ならば図書館がただの事務局とか責任者になるだけではなく、図書館の組織の中で考えるってことをすべきではなかったかと思う。それは図書館だけではな

くて、市民の意見を聞くために、市民の代表なりを入れた策定委員会を作って、これをやってくべきではなかったのか。子ども読書推進計画では、市民連絡会というのがあって、市民の意見を聞く場をきちっと作っていた。どうして読書活動振興計画の時には、市民の代表を入れなかったのか。このパブリックコメントだけではなく、もう一度市民の代表を入れて、それから計画案をやり直していただきたい。凍結でもいいが市民の代表を入れた組織でやることをもう一度考えていただきたい。

市民：40頁の図。要するに行動プログラムが言っていることそのものだと思う。分散から集中型に転換する、誰がどこでそういうことが決まったのか。分散型の地域館を、その図書館のシステム、その評価がどこに書かれているのか。その評価がどこにも現れないということは、今までやってきた多摩市の行政の歴史がすっぽかして振興計画ができています。分散から集中へということが、みんなが了解しているというような書き様が一番問題。今やっているシステムの移転と、その評価。そのことを問うような形式でしてほしい。読み聞かせみたいなのは、本館機能だけでどうやってできるのか。地域の豊かな読書の文化に貢献しようといったときに、抜けてはならない機能。それは、この地域分散のシステムの中でしかできない。それをバックアップするために、本館でどうするのかというような視点。だから、どこにパブリックな市民の意見を求めるのかというのを、はっきりした形で整理して出していただきたい。

市民：連光寺に住んで十何年、多摩市に住んで三十何年。子育ても図書館を利用したり、小さいころから読み聞かせをしてきて、今の子どもたちはすごく本が大好きでたくさん読んでいる。今健康センターでお手伝いをしているが、乳幼児に図書館の方が来て、いろいろ本の紹介をしている。子どもにとってどんな絵本を読んであげればいいのかというのは、図書館の機能として、すごく大きいと思う。特に乳幼児を持っているお母さんは、なかなか大きな図書館には行けない。連光寺の6歳から11歳を見てみると、聖ヶ丘を使っている方が多い。永山にはなかなか行けない。やはり聖ヶ丘はなくしてほしい。特に連光寺は広い割には、公共のものは福祉館一つしかない。一般市民が集まって、いろいろなことをする施設もない。連光寺に住んでいる人達は、差別されてるのかという思いもする。私も子育てしているときはなかなか遠くへいけなかった。連光寺は、ひじり館に来るには、大体平行移動みたいな感じで来られるところなので、お母さんたちにもいいのではないかと。子どもが大きくなってからも本を読めるというのは、小さいときからの読み聞かせだとか、本に親しむことがあったから。なかなかそれは学校だけではできない。図書館でしかできないものもたくさんあると思う。もう一つ、図書館は、職員をなぜその後継者を育てることをしてこなかったのかすごく疑問。

市民：読書活動振興計画と、地域館廃止、もしくは拠点館への集約というのは、基本的に矛盾していて、相容れない。取り組みのところで、1から5までの課題を挙げているが、地域館なくしたら、30%という数字が落ちる。中央図書館をもし作ったとしても、どういう規模の図書館になるかさえ見えていないので、維持費の削減になるかどうかわからない。図書館全体で3館に集約され維持費の削減になるのかどうか、保証がない。この40頁の肝の図で、この真ん中の左の四角の拠点館を補完する身近な場所という括弧の中のタイトルは、身近な地域館に変えて、その下のラインの中の拠点館を補完というのは、地域と高齢化時代のニーズに応える変えていただきたい。そうすれば、いくらかでも現実に近づくとと思う。

出席者

市民6名

職員 図書館長、企画運営係長、企画運営係1名、

.....
質問及び意見

市民：p.40の新たな本館というのは中央図書館を考えているか。新たな本館というのはどういう本館か。

館長：名称については本館か中央図書館か決まっていないが、多摩市の中心となる館、中央図書館と呼べるような館になると考えていただいて良い。

市民：中央館と本館は違う。中央図書館とは何か、と言っている人もいる。言葉の説明をどうするか。

市民：今の本館は地域館プラス事務局なり事務集約機能が中心。私自身全国に転勤したり、色んな図書館を見て来たが、今の本館は中央図書館ではない。たぶんここで機能強化と書かれているのがおそらく中心館なり、名前はともかく、今回は新たな本館というコンセプトの中で盛り込んでいられると理解したが、そういう理解で良いか。

館長：どこをどう補強したら良いのか、明確には申し上げられないが、そのように考えていきたいと思っている。

市民：言葉の整理をしてもらいたい。中心館、本館、中央図書館たぶん違うものなので。

市民：56ページの巻末資料で今までの流れがずっと書いてあって、こういうものを一応踏まえた形でコンセプトづくりというか、脈絡でとらえてという理解でよいか。

館長：そう。最近で言うと、平成22年の4月、図書館協議会から中央図書館についての答申をいただいた。それらを踏まえてと考えている。

市民：今の本館は最近できましたね。7館の中では新しいかと。

館長：本館は元々は市役所の隣にできていて、耐震上問題があるの落合の中央公園のところに移した。そのあと唐木田なので一番新しいと言うのではない。

市民：それを作ったときにこういう中央館機能を目指して作ったわけではなく、とりあえず移そうとした。

館長：そう。耐震上の問題なので暫定的に、10年くらい使えるようにとの移転。

市民：そうだったのか。どう変えれば本館から中央館になるのかちょっとお答えできないと言われて不安になる。そこがはっきりしないとまた二の舞。

市民：答申が非常に前から出されていて、平成4年にある程度、1万平米くらいの計画ができあがる冊子として市はちゃんと作たが、それを計画に載せることがされてこなかった。具体化するのをやってこなかった。あと3年くらいで暫定期間が終わる。その、暫定的にというのも、そこは中学に戻さないといけないと言われていた。ところが最近、新しいマンションとかをつくる時期をちょっとずらせば満杯にならないで済むみたいなことを言われていて、今新たな構想ができている。

市民：今の中央図書館が本館になるかもしれない。今の本館が中央図書館になる・・・

市民：言葉の説明か何か入れてもらいたい。まず中央図書館が何か分からないので。中央図書館とは、というのをどこかに入れてもらわないと。いきなり途中から中央図書館が出てくる。新たな本館というのがいきなり中央図書館にすり替わる。

市民：別にこれ中央館でなくても地域館で全部やっていいことであって、素晴らしい中央館、しょぼい地域館み

たいな、本館から中央館への進化みたいな感じなのかな、と思いつつこれを見てみると、あれ、これ地域館で全部やれば良いじゃんて思ってしまった、良く分からない。

市民：だから中央図書館で書いてない。新たな本館とて書いてある。ごまかしている。

市民：ごまかしてるというか、中央館で何かがよくわかってないのでは。

市民：多摩市立図書館が、図書館ネットワーク全体の、中心館と地域館という形で何をサービスを提供するのかって、その中で中心館がたぶん何を担うのかっていうのがあると思う。そもそも市民がどういうサービスを望んでいるかという視点での把握。今日前段で利用者懇談会をやらないのかという話があったが、そういうプロセスを今回の計画が踏んでいるところが見えない。前回の計画のときに色々意見を言って、かなり反映されてはきているが、そこがないと中心館何をやってくれるのかわからない。全国で中央図書館をつくってきた活動は色々な形であるが、市民が声をあげてつくる。多摩市もつくる会があるが、そういうところが、コンセプトをつくって、踏まえた形で、市民活動で中央館ができてきているという流れがある。その吸い上げがないと中心館ができると地域館がつぶれるという話にいきがち。弾力的に中心館の中身が変わってしまうのであると、結局言葉だけの問題になるのではと心配。もう一回確認だが、概念としては、この平成10年、58ページにあるような答申の趣旨を踏まえたものを実現するんだと。これがあれば、みなさんもこういうことかなというふうに思うと思う。当然中心館の中身については、利用者ニーズを把握する予定があるのかということ、その二つを確認させていただきたい。

館長：この絵だけを取らえて、いきなり中央図書館からの計画から入るかということ、そうではない。まずは構想ということで市全体を見ながら、中央図書館はどういうものが必要なのか、というのをまずは考える必要があると思う。それを考えた上で中央図書館の計画を次につくるようになると思うので、その構想の段階でみなさんのニーズをどう把握できるのかというのは一つのポイント。それから平成10年の答申、22年にもその整備のあり方があるが、絵画とか視聴覚資料どの程度という議論をする必要があると思う。面積も10,000㎡までできるのかなというのを見ると、ここまでの床面積が取れるかどうかは分からないが、こういう機能は必要なのかなと思っている。

市民：そういう意味でこの計画は中心館は必要であると。従来の色んな協議会等の趣旨を踏まえて、計画の策定にあたっては利用者なり市民のニーズをきちっと踏まえた形で実現をはかっていく、というのがこの計画に盛り込まれているという理解でよいか。

館長：そういう考え方でこの次の段階は動くということです。

市民：利用密度について、これまでの7館と1分室でやってきた中と、これから構想されている利用密度というのがどうなっていくのかということも書かれているので説明してほしい。それと、非常に綿密な資料が出てきていて、48、49ページの地域館周辺住民の図書館利用割合というのが26年度でつくられているが、地域館の周りの住民が地域館を利用しているということが如実にわかっていて、本館とか駅前間に行っている人たちの度合いが非常に少ないという状況も出てきている。そういう意味では今までの歴史的に作られてきたものが、なくなっていったらどうなるかということもぜひ考えてほしいということ、説明していただきたい。

館長：46ページをご覧ください。この上と下とに地図があるが、平成26年度の延べ利用者数があるが、それについて地区別に一番利用の高いところを1として、それぞれの地域で、どのくらいまでの利用密度があるか、計算してみたもの。一番多かったのが関戸の一丁目。この図書館がある辺りを1として下がってくるのを地図上にドットの大きさと表したものが上のもの。下のものは、行動プログラム等では3館プラス1分室になるとあるので、そうしたところどうなるかということところだが、シミュレーションをしたわけではなく、今の状況から引き算をただけ。必ずしもこうなるわけではない。愛宕地区などを見ても地域には図書館はないが、バスで関戸とか本館のほうを利用されているように見受けられる。というところで

は、必ずしも3館1分室になってもこうなるわけではないと思う。先程の40ページの図で、地域に拠点館を補完する機能とあるが、やはりコミセン等にも何らかの蔵書を置いたりということでの機能を残す必要があるのかなということを読み取れる図。それから、48ページ49ページは特に年齢別で見るところの説明で、例えば、東寺方図書館周辺というのが48ページの上のほうにあるが、全年齢で見ると和田1261というのは百草団地というところで、関戸の利用者が3分の2くらい。一番近いのは東寺方だが、生活動線としてはバスで関戸まで来るのが多いのかなと思う。その時に図書館を使われていると思う。ただ、6歳から11歳という小学生は東寺方を使うほうが多いというのを比較したもの。やはり地域に必要な機能というのは、何回か懇談している中では大人の居場所も必要だという意見もあるが、子どもにも必要なのかなというふうに考えてきた資料。

市民：私自身はこの振興計画が策定されたことの意義は非常に大きいと思っている。ただ、読書なのかなという疑問があって、これは図書館を中心とした図書館のサービスの計画として策定されるのが望ましいと思う。やや読書にこだわり過ぎているという感じがある。それと、環境認識の部分がやや弱い。この多摩ニュータウンがなぜ今回公共施設のプログラムに追い込まれているかということ、人口構成等の変化から担税力のある人が減っていくという、一方で維持コストが高まるということに対する対応になっていくわけだから、そこには高齢化、時間長者と私は呼ぶが、要するに時間消費なり生涯学習というニーズを考えたときに、今のこの全域サービスというのをどういうふうに捉えるのかという整理をしていかないと、どうしても地域館の問題というのがニーズとして出てくると思う。その意味で全域サービスをもし守れないとすると、どうするのか。それから、私の年来の主張だが、もしその全域サービスの形を変えるとすれば、むしろ図書館員とか学校図書館であるとか様々な読書活動なり図書館サービスを支えるものとして、移動図書館を復活した上で図書館員が出向いてサービスの提供に努めるということをやっていたほうが市民に対する説得力が増すのではないかなと思う。

それから、この計画について非常に意欲的でたくさんのサービスラインを考えているが、一方でそれを支える職員の育成が間に合っていないという部分があるとすると、そのサービスラインをいきなり広げというのは難しいのではないかな。例えばレファレンスであるとか色んなサービスを提供するその専門性の確保みたいなところを、市民とどのように連携をしていくような図書館職員を育成していくのかという課題、そういう時間軸というがどれくらいかかるのかということと、サービスを提供できるという、このタイムスパンが合っていないと、絵に描いた餅になってしまうのではないかと懸念を持っています。大きく言うとその2点を特に改善をしていただきたい。やはり環境認識についての大きな書き込みがないと、打ち出そうとしていることと、実際に実現しようとしていることとの説得性が非常にないという課題があるように思う。ぜひその辺の書き込みをしていただきたい。

市民：30項目ぐらいある。ほとんど編集上の問題。編集のほうでひとつ。こういう印刷物はカラーで印刷するとは限らない。現在白黒印刷。例えば、1ページ目があみかけ印刷になるが見えない。カラー印刷するのなら構わないが、白黒印刷することを考えていない。他の掲示物とか、図書館にある掲示物・配布物にしても全部そう。印刷すること、見ることを考えていない。ただ作って終わり、という形になっている。10ページのところで東寺方の運営方法を試行していると書いてあるが、平成22年からです。試行期間で何年か。10年くらい試行するのか。唐木田も何年経ったか。そろそろ再検討しても良いのではないかな。再検討している節が全然ない。

館長：唐木田の話で言いますと、最初ですね、2年くらいで市長のほうからやった結果を出して、続けるかどうかを評価しますよという話があって、結果として3年かかったが、その段階である程度評価はした。ただ、公共施設の見直しの話が出てきてペンディングになっている。

市民：このように平成22年から試行と書かれると長いのではないかなという気がする。

市民：26 ページに高齢者サービスとある。この計画には高齢者に対する計画が全く出てこない。多摩市はこれから5年、10年先に急速に高齢化してくるが、それに伴って多分高齢者の図書館利用者がすごく増えると思う。それに対する計画が全くない。人数構成的にはこの辺が一番増える。どこに焦点当てるか。人数が多いところに当てるのか、少ないところに当てるのか。

29 ページの0歳から5歳の利用率とあって、51 ページにそれに対する考えが出てくるが、「0才～5才が0を下回る数字になっていて、これは本人が登録せず、ご両親といっしょに図書館に来るときに、家族のカードで借りる」からこういう事になっていると。実態を把握するには貸出実績で児童書と絵本の年代別の貸出をもし出せるのであれば、それで30代とか40代の人が児童書とか絵本を借りているとすると、それが0歳児から5歳児の分が多少入っているのかと推測できるのでは。

32 ページで現在実施している主なサービスとあるが、継続して行われている内容と、今年でやめたものが入っている。TAMAICHI というのと、利用者懇談会の実施というのは今年度実施されない。それを分けてもらいたい。またはTAMAICHI であれば25年度は159票入って26年度は83票で、今年は実施しませんと、そう書くと何となく雰囲気わかる。利用者懇談会についても、あちこちから言われてやったのに、今年はやりませんと。継続してやっているように見えるのはやめてほしい。

館長：やりたかったが、できなかったというのが実情。

市民：一番大事なのは44 ページのところの本館の見直しの話で、本館の見直しと図書館の再構築が始まると、この計画に工数取れるか。優先順位をつけてもらいたい。優先順位をつけて、この中で例えば、ホームページのレファレンスの検索というのがあるが、利用実績はどうなのか。使っていないのならやめたほうが良い。切れるものは切る。で、集中したほうが良い。ホームページのレファレンスの事例は古くてだれも使っていないし、多摩市関係のものは多摩市のホームページで検索事項入れればもう全部答えが出てくるものばかり。思い切ってやめるのが一つの手だと思う。あと細かいのは編集事項なので紙に書いて渡す。

市民：私は図書館大好きだが、懇談会に何時間も時間をかけるほど興味ない。こんな大変な問題だと思っているが、集まっているのはこれだけという現状。市民をどういうふうに巻き込みたいのかがわからない。これ書いてあること全部素晴らしい事なので、おまかせしたい。それよりも、例えば、多摩市これから高齢者増えるから、変わった図書館にしてみようと思う。例えば、大型本ばかり増やすとか、朗読ボランティアを募って、日本一の高齢者対応した図書館になりたいがどうですかと言われたら、60になったらそういう図書館になるのも良いかもというような感じの話し合いなら来る人いるのではないかと。例えば、多摩市の子どものことなら、子どものいるお母さん達がここに来ないとダメ。老人のための図書館になったら、じゃあ子どもの本なくなるのかという危機感みたいなものないと、図書館の運営については市民は興味あまり持てない。そういう参加がしたいです。ビブリオバトルも行ったし、コーヒーを飲みながら売り物の本を読むというのもやってみた。そういう意見だったら言いたいが。

館長：読書活動振興計画の市民懇談会と広報に載せたりホームページに載せたりしているが、これだけでは参加がないとは他でも言われている。内部でも、利用者懇談会も、テーマを設定して実施しないと、興味のある方が来てくれないというのもある。工夫していきたい。

市民：私も「多摩市読書活動振興計画」と銘打って、市民懇談会がありますと広報に出ていたが、これ見て、あまり来たいと思う人はいない。うちのところは豊ヶ丘で、地域図書館があり、聖ヶ丘も唐木田も東寺方もある。そういうところではやはり関心のある人が多い。そういうふうに温度差がある。この計画自体が、読書活動の振興ということよりも、むしろ図書館の運営計画とか、そういうものがこれから変わるということを広報に出すときも知らせて欲しいと思う。こういうことをする上では、運営計画みたいなものが市民に毎年分かっていくことが大事だと思う。他の周辺の市では5年計画とか、図書館事業計画とか、町田でも2013年から2017年度までの計画が非常に綿密に出いて、いつでも市民が見られるような形になっ

ている。調布は毎年事業計画が公表されて市民が見られるようになっている。武蔵野もそう。多摩市の場合は、ようやく 23 年度に基本方針と運営方針というのが出されて、毎年の実績というのは「多摩市の図書館」を毎年出してデータも出ているので、実態は分かるが、市民の評価と、行政の評価が公表されるといのが今までなされて来なかったから、市民が親しみを持てるようなものとしてなかなか映ってこなかった。地域図書館とか文庫活動、そういうのが支えていって全国でも 1 位、2 位という貸出冊数が出ているのは非常に大きな成果だと思う。それを後退させないような形にして欲しい。今までの歴史を踏まえてこれからを考えてほしいし、規模もその必要性があってできてきたわけだから、大きく変わるというときには相当期間を取って計画を作っていってほしい。今回のように 3 月末に決めるのはとても納得がいかない。計画をちゃんと練り直していただきたい。

市民：関連して、図書館の再構築の問題と、その他のものを別にしてもらいたい。レベルが違う。読書の関係と本館の部分はレベルが全然違う。一緒にやるから、おかしい気がする。かかるお金も片方は何百億、片方は千円や二千円というレベル。重要度で、これは特 A で残りはもうみんな Z。図書館の再構築について話し合うと言ったら来る人数全然変わってくると思う。それがわかっていない人も結構多いと思う。図書館の再構築について説明してくださると何回も申し上げているが、一回も実現しなかった。これでパブリックコメントあまり意見が集まらないとすると、意見通ったことになってしまう。ならないように皆さん頑張らなくてはならない。

市民：図書館は旧態依然。図書館は読書活動の場だけじゃない。市民の書齋として、本をたくさん借りて調べる、そういう場所もぜひ欲しい。それがこの多摩市の図書館にはない。町田に行くと、大きい部屋があってそこでいくらでも重ねてできる。図書館は読書活動の場だけではないということを、館長考えてほしい。私図書館協議会やりましたが、新しく卒業された学生さんが立派な職員になられて、多摩市の図書館を成長させてもらいたかった。本も積めない、そういうのを図書館と言えるのか。高校だって中学だって大学だってみんなそういう部屋があった。本当に情けない。学校（本館）があと何年かで使えなくなる。それと、4 館がなくなる。実際に自分のところから図書館がなくなってしまうと、大変苦勞される方多いと思う。高齢者が多い。そういう環境なんです。やっぱり考えてほしい。これをいつまでに作るというのも書いてないし、つい何日前に朝日新聞に学校の中に図書館を作るとか、老人の介護施設の中に作るとか、そんな案も出ていましたが、それもしょうがないと思うが。多摩ニュータウンは駅の周りだけに人が住んでいるのではない。遠くの友達の家に行くのも大変。その人達が図書館に来れると思う。やまぼと号もなくなったし。それでこんな計画作って、市民のためなんて思われたら困ります。最初から考え直してほしい。本館にも行ったが、登って歩いてほんとに大変なところ。こういう特殊な地形に作ったら、バスなどが必要。図書館らしい図書館を早く作ってほしい。ただ本を貸すのでは足りない。

市民：お金がないんですよ。

市民：お金がないから再構築という話が。

市民：お金がないと言って冗談じゃない。定年になっても税金納めている。子どもたちに夢があるようなまち、そうでないと誰も住まなくなってしまう。永山 5 丁目、6 丁目、4 丁目の人は駅まで来るのも大変だと思う。

市民：図書館ないところは連光寺とか、永山の奥とか結構ある。やまぼと号のようなものも必要だと思う。多摩は上り下りが結構坂が多いからやっぱりお年寄り歩いて行ける範囲で図書館を利用できないのは困る。この前連光寺の人達もぜひ欲しいと出てきているが、本が置かれるというだけじゃ図書館じゃない。ちゃんと職員が配置されて、本が循環していくことが大事。サービスポイントというのが作られても、みんななかなか利用しにくい。住民のボランティアも、自分からやりたいということでやるのは良いが、行政のほうからやってくれというのはちょっと筋が違う。今の住民からのボランティアは、自分のやりたいところ

でやれてるが、貸出とか本の整理とか、人員が足りなくなるから補完してほしいとか、行政は行政としてのサービスの体制を作ってやっていくということが基礎にないといけないと思う。今回のこの計画の中の、協働というのが怪しげな協働で、私は賛成できない。この前調布の図書館に見学に行った。市民のボランティアは週2時間を限度としているとのことで、それくらいのテンポで関わって図書館を見守っていくというぐらいのものだと思う。長く10年20年とやっていくにはなかなか大変。今、若い人が働かないと食べていけないという非常に厳しい状況の中にあるから、職員体制をきちっとして、司書の資格を持った人を少なくとも各地域の館に一人以上配置して、大勢を相手にする地域は一人じゃ足りない。そういう形で配置を適切にやっていかないと、図書館員もなかなか定着できないし、育っていかない。今までやってきた体制の中で何が不足しているかという、職員体制を築いていくということが一番ネックだと思うので、その辺りを踏まえた計画を作ってほしい。行政のサービスは今まで計画的にやってきて、必要だから作ってきたものだと思うので、それをいきなり合理化していくというのが、果たしてこれからの多摩市を希望のあるまちにしていく計画なのかなと思うので納得できない。計画的に本館も作ってほしいし、何かに飛びついて土地を交換するとか、それで早く計画を実施してあと地域館はもうなくなりますよと、いうふうなことにならないようにしてほしい。一定の期間ちゃんと計画して、それを実施していける見通しを持って財政的にもやっていただきたい。

市民：これを見ると、本館がだいたい10年という期限。どうなるのか。候補地が出ているのなら、それを希望として書いたらどうか。何も無いのにこれだけ見ても何にも面白くない。それで読書活動を何とかなんて私これを見たときにびっくりした。

市民：ここには書いてないが、市役所の代替地にするか、どこかの大学と入れ替えるかという話はもう一応議会に出ている。

市民：自分で学べるということは、人間が一番楽しいと思う。それが自分の近くになくなって、遠くまでバスに乗ってこなければいけない。私も永山からバスで来たが、高齢のご夫妻が、買い物だけでキャリーバッグを引いている。それで図書館で本をいっぱい借りて動けるのか。そういうことを考えてみてほしい。

市民：今まだ60代なので、何とか行けているが、70越したら、本を借りに行くのも大変。

市民：5年でだいぶ変わるという統計が出ている。多摩市は特に急速に変わるというのは予測で出ている。

市民：どこにそういうのを言えば一番良いのか。

館長：今日いただいたご意見は行政管理課という市長部局のところに伝える。市長ともおそらく話す機会がある。共有したいと思う。

市民：ぜひ地域館はなくさないでほしい。

市民：地域館をなくさないということ、本来の図書館サービスをやってほしい。出来て40年も経っていてまだできてない。調査したいとかちょっと調べたいとか、そういう場所がない。

市民：若者が離れます。その若者もそういう場所があれば、自由に来て、みんな集まって調べものしようみたいな空間が図書館にあり、これからはネットの時代でもあるので、そういう場に若者がどんどん集まってきやすいのではないかな。

館長：恵泉などの状況も踏まえて、若者が集まる感じはあるか。

市民：図書館はある。音が漏れない大部屋があって、そこにコンピュータがある。そこでわいわいしても大丈夫。

市民：豊ヶ丘の図書館も2階でコンピュータ使えるようになっている。私も一度やってみようと思う。電源はあるのか。

企画運営係長：机と椅子があるだけで、電源はご自分で準備していただく。電源があるのは本館の学習室だけです。

市民：多摩地域だけを見回したときに日野の図書館が一番先陣を切ったが、図書館のサービスのレベルとしては、

この計画がないことを含めて、多摩市は大幅に3周遅れくらいに遅れていると思う。その意味で計画の策定まではとにかくやることにしたのは、レベルとしてはやっとならぬところに来たところがある。ただ、その中に、全域サービスを守るとか、多様な年齢層のニーズに応えていくということがきちっと盛り込まれていかないと、多摩地区の中でも自治体なり地域の競争に負けていってしまうと、色んな図書館見て利用すると実際そう思う。例えば、武蔵野プレイスなどは、今の若者の上のほう下のほうに色んな活動拠点があって、その中に図書館が位置づけられている。全然財政力が違うが。財政の厳しい多摩市は一体どういうサービスを守っていくのか。財源の問題は絶対あると思う。どういうものを大事にして、この市の魅力を高め、あるいは維持していくことになると思うので、この計画としては何を大切に守って育てていくのかというのが、多摩市の実情と併せて、出てくるようにしていただきたい。その意味で、全域サービスを守る上でもし地域館をある程度中身を変えるのであれば、一方で高齢者のニーズあるいは若年層なり小さいお子さんのニーズに対しては、移動図書館みたいなものを復活することによって、サービスを補っていくことも出来るはず。柔軟にその運営の中に入れていただく必要はある。あと、やっぱり中央館なり中心館の機能をしっかり持つと事もサービス全体を高めていく意味では大事なので、その点は計画として実現していただきたい。

市民：今ある地域館を縮小するというのはやめてほしい。唐木田にしても豊ヶ丘にしても。5万、6万の人達が1年間に使っている。東寺方もこれから若いお母さん方が、いっぱい子どもさんが産まれてくるし、今よりもっと利用人口も増える。聖ヶ丘にしてもそうだと思う。財政的な問題で言うと、多摩市は不交付団体で、裕福とは言えないが赤字団体ではない。市長も、パルテノン多摩も公園と一体で都市計画税を活用して大規模修繕もやっていけるし、それ以降の運営についてもやっていけるといっている。そういう大きな施設が今後維持していけないということが出てきていないから、これからも大丈夫と市長の懇談会で明言された。今後人口がある程度減ったにしても、それが維持できないという事にはならない。図書館というのは図書館法に基づいて、憲法の下で民主主義を発展させていく拠点になる所で、一人ひとりの子ども達が育っていく人づくりの根幹になるところだと思う。非常に大事な教育機関で、それを縮小するのは今の歴史的な発展から言うと、逆行させてはいけないものだと思う。財政的に非常に困難で仕方ないからということであれば市民債という形ででもやっていくとか、最終的にはそういう段階まで守りきる問題だと思う。縮小ということで本館を作っていくという事だけはやめていただきたい。中央図書館なり本館なりを作るについては、計画をちゃんと立ててやっていただきたい。全体がうまくいくようにやっていただきたい。

市民：やはり高齢者の心身、健康を守るために地域館はぜひ存続をお願いしたい。

市民：人生最後に来て、振り返って色んな資料を見たい。そういう時に図書館でゆっくりと一日そこにおいて、利用できると思う。私も図書館の勉強を今でも続けている。1年に6回。2ヶ月に1回。東京学芸大学の山口源治郎先生をお迎えして、会場費として一人500円ですごい勉強ができます。職員の方も前は来ていた。今多摩地域の人が多い。だいたい10人くらい集まって2ヶ月に1回山口先生から勉強を教えてください。それをもう20年続けている。山口先生の前は石井先生がやってくださった。あさってですから館長も、こういう会があるから市民も来てくださいと言ったらどうか。多摩市の図書館の職員は出席率が少ない。よそはすぐ出席して市民も職員も一緒になっている。多摩市の職員は出ている方は本当に少ない。これ2日からありますのでね、そこのヴィータで。みなさんぜひ来てください。

館長：図書館大会ですね。

市民：地域公立図書館大会、これは館長と同じように図書館長協議会が主催です。テーマが「三多摩の図書館これまで、これから～未来へ知識をつなぐために」ということです。

市民：よその市はどうやっているのかというのを勉強しないと井の中の蛙です。山口先生のようなほんとに素晴

らしい先生に、すごい資料で講義して下さる。ぜひいらしてください。国分寺でやっている。それと図書館問題研究会にも入っているが、情報は色々入る。長くやってきた色々な関係者がいるので、教えてもらうこともできる。多摩は何をやっているのか。特にこの落ち込み方はひどい。

出席者

市民 35名

職員 図書館長、企画運営係長、企画運営係1名、唐木田図書館長

.....

質問及び意見

市民：冒頭館長が、地域館4館を公共施設再配置のプログラムの中で廃止ではなくてNPOなど色々な形に変えるというような表現をされたが、豊ヶ丘複合館の場合ははっきり廃止です。どうするかと問うと、種地にするとのこと。種地とは何かと聞いたら、将来売却するとか、他の施設をつくるとか、そういう保有財産にするので複合館自体は廃止するとはっきり言われた。そここのところは事実を認識していただきたい。

館長：はい。

市民：多摩市読書活動振興計画案について12月の広報でパブリックコメントの募集とかこの懇談会について書かれていて、地域館の削減とか廃止とか非常に重要な中身を含んでいるものだが、この広報だと、非常に重要な部分を市民に伝えないままの形でコメントをいただくことになると思う。それは非常に問題があるのではないかと。少なくとも2,500人くらいの署名を集めて、この唐木田図書館の存続させてもらいたいという請願を出している。そういう人たちのところまでちゃんと届いているのかどうか。あの広報だけでは届かないと思う。私はこれは良い事ではないと思ったので、プリントを作ったり電話をかけたりにして色々呼びかけはしました。それでも届いていない人はたくさんいると思う。そういう人たちに対しての意見はどういう具合にすると市は考えているのか。中身よりも、まず周知するというところについてどう考えているのか。

館長：そういうご意見は他の懇談会でもいただいている。読書活動振興計画という題名だけを見てもそれについて意見を言いた人はいないのではないかと。それも含めて今回ご意見をいただいたと思う。また教育委員会でも検討し、あるいは市長部局とも共有していきたい。

市民：振興計画ではなくてこの図書館の存続に関してどうなるか、みんなで考えようという会議だと思って出てきた。だから今の計画以前の問題で、なくなるのに考えたってしょうがない。唐木田図書館は継続されるのかそれとも廃止になるのか、先に言ってほしい。

館長：この場で私のほうから継続するのかわくすのかという事は明確には申し上げられないが、やはり地域には何もないというのは難しいだろうと考えている。最初の行動プログラムの中では貸出・返却と、予約の申込あるいは予約の受取ができるような機能とあったが、それだけでは難しいだろうということもここでは言っている。それが図書館という名称なのかあるいはどのくらいの規模なのかということについては、これからみなさんと行動プログラムの中で検討していく必要があると考えている。

市民：最初にこれは振興計画でみなさんの意見を聞いてこれから検討し、3月いっぱい結論を出すと言われた。唐木田が最後。そして明日までは意見を求めるという。3月で結論を出すというのはすごく急いでいる。この期間の中で3月に結論を出すというのは疑問に思う。もう少しゆとりを持って、私達の出した意見を深めて討議してほしい。

それからもう一点、唐木田図書館できて5年です。こんなに喜んで待ってた図書館をなんで、拠点が大きい丸だったのを小さくするのか。ここは老朽化していない。

館長：まず一点目の3月までというところが、できないのではという意見を他でもいただいている。事務局とし

でもこれをまとめきれののかなというところも正直ある。いつ決定するのか検討する可能性はある。それから、唐木田について、できたばかりなのにどうして縮小なのかというところで、職員の問題だとか、図書館にかかるコストの問題だとか色々あって、その中で公共施設の行動プログラムは施設を更新していけないというところが大きい。図書館としても運営していくための費用というところに着目して、老朽化の問題がないところについても縮小する必要があるのではないかなというところが、行動プログラムの中では言われている。

市民：今日の図書館の計画の説明を聞いても、なぜ4館をなくすのかということが全然見えてこない。予算ありきで要するに金を削ろうと。でも図書館が大事なことはみんな言っている。削るところは他にあるのではないか。削るところは他にない、図書館も我慢してください、というのならわかる。私は平成13年から設立準備委員会に最初から携わってきた。平成23年、要するに10年かかった。最初の市長の時に一度設計図もできたが、予算が取れないということで3年待たされ、最初からやり直し。2回目の設立準備委員会でやっとできた。その時は図書館をつくって、みんなが歩いて行けるぐらいのところに置こうじゃないかと。日本全国で言えば問題になっているのは東京一極集中で、地域がどんどん廃れていく。それと同じで本館大きなものを一個であとはもうなくても良いという発想ではなく、地域の創生じゃないが、多摩市に住んでいる人が歩いてもしくは自転車あたりで図書館に行けるように。若い人が減っている、来る人が減っているというデータがあったが、インターネットで予約が可能。とすると、大きなところで一箇所どーんと閲覧とかあるいは学習とかがそこで出来るというよりも、各地域でこまめにインターネットでやっていけるという、小さいところは残しておくべきであると思う。本館ができ他のところもなくすというのはやってほしくない。話聞いていても良い事ばかり言って、なんでなくさなければならぬのか全然分からない。これ結論ありきで納得できない。

市民：i ページの「現状を維持していくことはもはや不可能である」という。今まで多摩市立図書館が果たしてきた役割と言うのは非常に大きく評価されているにも関わらず、こういうのが出た。「もはや不可能」とはどういうことなのかを知りたい。

それともう一つ、結論を出すのが早すぎないか、果たして意見が本当に活かされているのか。予算の問題で言えば、何を削って何が大事なのか。大きなところだけでなく、身近なところで活動、活用できることをぜひ。あるのを、より充実しなくちゃいけないのをなくすという結論がどうして出てくるのか。文化の問題でとても大事な問題。本当にここを削るしか多摩市の財政は成り立たないのか。多摩市全体の予算で考えたら図書館の費用はどれくらいか。何をなくして何を活かしていくか挙げてほしい。教育委員会だけで結論を出してほしくない。

市民：今の質問の「もはや不可能である」のがどういう事かを、答えてほしい。

館長：市議会の平成23年の事業についての評価があった。この前に唐木田図書館の委託にしたというところがあったが、議会でも評価がされた。人件費がかかりすぎというところとか資料費の問題とか、図書館の運営のところが大きかった。

市民：多摩市の基本条例などを見ると、市民が積極的にまちづくりに参画することと書いてあるという話も聞いた。皆さんそういう意味でここに出席なさっていると思う。私聞きたいのは、この図書館を残すためにはみんなで一緒に考えましょう、こうしたら残せますよという提案を私は欲しい。そうすると、我々はどうそれに関われるか。図書館活動だけじゃなくても広い意味のコミュニティづくりに役立っている。ぜひ残すためにはどうしたら良いのだという提案をしていければと思う。

館長：先程も言った人件費というのが大きい。例えば6時まで開いているときに5時までできませんとか、休館日を平日にもう一回設けられませんかとか色々なことがあるかと思うが、まだその段階ではない。色々なパターンがあると思う。

市民：色々なものを中央集権的に集中するのは、今の時代は逆行して、分散型に持っていかないと市の財政は破綻していくと思う。唐木田地区のキーステーションにして、もしくは集会所のところに小さな図書館を自主運営するとか、例えばそういう形の提案を、そういうクリエイティブな意見を今日聞きに来た。

館長：集中のほうが良い点というのもあると思う。

市民：要するにここを残すためにはどうしたら良いかということ。専門的なことは市の立場から提案していただければ良い。

館長：今日はそこまでは難しい。

市民：こうなりました、こうなりますだけでは、話は進まない。それに対して、専門家の立場ならこうしたら残せるという提案ができないか。我々も我々で残してくれ残してくれと言うばかりではダメだから、どう関わられるかということを含めて参加している。

市民：ソフト面の限りにおいては、良く書けていると思う。31 ページに「あらゆる場所」と書いてある。私も図書館へこの時間に来たが、この時間でも若い世代がいっぱい勉強している。やっぱり図書館が併設している事も相乗的に影響している。ああいう人達がこれからの多摩市を支えていく。人を育てなければこれからのまちは良くならない。だから文化の振興は最も大切な事。そういう限りにおいては教育委員会の言うとおりでと思う。

それからハードの面で、図書館を最低限置く事はセーフティネット。上下水道と同じ。これがなくなったら、我々の文化面を支える生活どうするのか。唐木田も公共交通の駅前。小田急線の始発駅で、他の駅と違うところはみなさん直接都心に行く。多摩センターに寄らずそのまま素通りする人多い。わざわざ本館に寄って本を借りるようにはならない。

市民：残す方法を提案してほしい。具体的な提案をプロとして提案してほしい。

市民：児童だとか高齢者だとか、多摩センター行けと言っても行けない。唐木田駅は他の駅と違って独立性が高い。そういう特異性がある。それからたったの2年間で施設廃止計画を作ったこういう例は全国の自治体であるか？

市民：こんな金の無駄遣いはない。何億円かけたのか。

市民：そういう人間はみんなクビにすれば良い。そうしたら費用が出る。

市民：これに関わった市長さん全部責任とって欲しい。唐木田の特異性ということで、むしろ分館というよりは、準拠点館に位置づけて、格上げしてほしい。

市民：唐木田の駅前に東急があったがなくなった。唐木田や中沢の人達が困った困ったとすごかった。主婦の方もお年寄りの方も、すごく大変だと仰っていたのを感じる。図書館もそれと同じで、多摩センターまで行くのは大変。年取っていくと多摩センターまで行くのは本当に大変だと思う。中央図書館をそこにつくれば良いという問題ではないと思う。

市民：他の地区だったら買い物に多摩センターに行く。買い物行ったときに図書館に行く。でも唐木田は買い物に行ったときに図書館に行けなくなる。唐木田は独立性があるから、今度の計画では地域館ではなしに準拠点館に格上げしてほしい。

市民：市民サービスには人が必要。だから人件費というのは当然かかると思う。図書館の運営費の中に人件費が74%もあるという捉え方が変ではないか。給食センターの時もそう。

市民：読書振興計画というタイトルなのに、地域館を廃止または縮小すると、タイトルと中身が全く矛盾している。館長の説明等聞いても、なぜ縮小しなければいけないかというところで一番大きなのが人件費というが、市の直営で人件費を払うのと、委託するのと、それで節約になるのか。どうしても図書館には人が必要。人がいてこちらが調べものをしたい時に専門性を持ったひとがいる事を含めて図書館サービスだと思う。民間じゃないほうが良いと思うが、比較で数字が出ているのであれば教えてほしい

館長：数字が手元にない。

市民：4,065万。

館長：同じような規模でやっているところで、東寺方があるが、そこは嘱託職員と、館長は関戸と東寺方を兼務し、土日については本館からも応援が行っている。4名だけで見ると1,000万台というところ。兼務の館長の部分や、土日の応援の部分を含めても唐木田よりは費用がかかっていない。

市民：地域館の重要性は皆さんのいうとおりで、多摩市の独自性とか強みでもあると思う。一方で地域館を4館廃止で十把ひとからげは乱暴ではないか。全地域館大事だが、唐木田はまだ2年とか5年とかで廃止というのは、市の判断ミスを見せさせているようなもの。責任をどう取るのか。地域館ということで十把ひとからげにするのではなく、唐木田についてはまだ新しいということと、長年の活動の中で生まれた場ということがある。高齢化ということで長距離歩くことがきつくなる。これから地域にあることが逆に重要になってくる。大妻女子大など学校には学校図書館があるが、学校図書館だけでは担えない地域の図書館としての役割も果たしているからこそ、たくさんの学生・生徒が活用している。他の地域館とは違う光景。それぞれ個々の強みというのを評価して、それで残すための施策を検討していければと思う。時間を減らすとか曜日を減らすということも一つだと思う。人件費が大きいというのはそれはどこでも当たり前だと思うが、減らすための相談をしていけば良いのではないかな。

市民：運営方針として「だれもが使える図書館」とうたっているが、図書館の数を減らしたり全部なくしてしまったら、逆行する。40ページに図が出ているが、中央館がないだけに蔵書が分散して、再構築が必要ということはわかる。しかしこの図の中に曖昧なまま、拠点館を補完みたいな形で図が載ると、何か全然見えないところでこれが一人歩きしてしまう可能性がある。しかも行動プログラムに反映させると書いてあるので、怖い。予算の面で色々削減しなければというのはあると思うが、8月に調布の図書館長に講演があり、同じ税金を払っているのだから全ての地域に歩いて10分のところに図書館を整備してきましたという事で、今中央館入れて11館作っている。多摩市も飛び飛びになったら同じ税金を払っているのに逆に使いにくい人が増えてしまう。本館をもっと充実するのだったらそこに少し投入して、今の地域館をもう少し、休館日を増やすとか、時間を縮小するとか手立ては考える。同じように残すのは出来ないと思うが、残せるような方向で具体的に考えていただきたい。

市民：以前、唐木田のまちづくり部会のほうで話題になったが、今の本館が前の管路収集センターに移転する、けどもまだ予算が取れていないと伺っている。今の本館は元中学校で、移ったらまた中学校に復活するというシナリオというのは本当か。そこがある程度はっきりしないと、末端の唐木田のほうはどうなるのが分からない。私にとってはからきだ菖蒲館はずっと出来る前から知っているが、逆に廃止とか縮小するとかいう理由が全然見当たらない。人件費がかかるというのであれば、65歳以上の人が研修をして、図書館介護予防ボランティアというような事にして、色々できると思う。なおかつ、図書館を盛り立てているという生きがいを持つと思う。それから唐木田図書館を存続させるには時間を短くしたり休館日を増やしたりという、職員の時間を減らすことによって人件費を削減するという手法だと、唐木田図書館の良さがアピールできない。逆に5時でとりあえず図書館業務を閉館しても、夕方にボランティアが出てきて、貸出業務がなくてもいるだけで勉強したり館内の閲覧ができるようにすれば、別に人件費かからない。

市民：財政が問題になっているが、多摩市が発行している施設白書でいくと、唐木田が人件費等全て含めて年間4,065万、4つの地域館合わせても施設白書では1億5,645万です。多摩市の予算500億円からいくと0.3%なんです。そこで唐木田は延べ5万850人の子どもたちや高齢者が利用されている。これがなくなったらどうなるかというのが46ページのこの利用率で、唐木田がなくなったら、利用率が10%になってしまう。10分の1です。4館残しても1億5,000万、市の予算の0.3%、よく市がいう全ての施設は残せない、財政が大変だというのが、全く当てはまらない。今度パルテノンの大改修を予算にも出すそうだが、2年前は39

億5千万で改修すると言っていたのが、工事費が上がって市議会に出されるのが今度58億4千万。さらにプラスαで数億円から数十億円の上乗せが見込まれる。とりあえず60億くらいでこれを15年くらいで返済、市債と都市計画税でやろうと言う。パルテノンを改修することは悪いとは言わない。それから見てたった1年間で1億5千万、これで4つの館がもって子ども達や年寄りが図書館を利用してそこで生き生きと暮らせる。それは財政的な危機が問題だと思うか？

館長：図書館としてどこまで削るのか今のところ設定されているわけではない。

市民：唐木田が4,065万、東寺方1千万ですか。これだけ縮小しなくてはいけないというので、相当かかっていると思ったら、こんなに少ないのか。

館長：東寺方の1千何百万というのは人件費だけです。

市民：こういうところは人が必要。人の予算というのはそんなに削れないと思う。確保していく必要があると思う。図書館みたいなところは古くなったら改修して存続させていくというのが非常に大事だと思う。それぐらいの予算がどうして取れないのか。人を育てるという点でとても大事な事。私達が出した意見がきちっと汲み上げられていくのか。結論ありきではなくて。

それから、図書館はボランティアも必要だが、専門的な知識が必要な分野。人を削っていくというのはぜひほしくないでほしい。時間もできるだけ利用しやすい時間にしてほしい。図書館があれば良いというだけでなく、休館日を増やすとか、時間を減らすとかという方向での解決の仕方はほしくないでほしい。

市民：一貫性という話で、これをつくってからまだ何年も経っていない。必要性があって作ったのに、空っぽにして何に使うのか。今度多摩センターの駅につくると言うが、土地代が高いし費用もけっこうかかる。逆に、今までの状態を継続する、あるいは人を少なくしてやったほうがずっとコスト的には良いと思う。かえって無駄なことをしている。コストが多くかかるからやめると言って、より多くコストのかかることをやっている。せっかくつくったここを廃墟にするのか。朝令暮改の最たるもの。一体誰がこういう話を主導しているのか。

市民：私はこれを読んだ時に、はっきり残るか残らないかわからないというふうには解釈しなくて、これは廃止なんだなと思って大変だなってやってきた。4つのところの廃館というのが出てくる。図書館が本を借りたり返したり、若い人が学習したり、新聞を読んだりそういうだけではダメなんだというところがありました。ビブリオバトルとか、新しい事や目立つ事を、脚光を浴びるといふのがある。私達ここに集まっている人はみんな共通していると思うが、普通の当たり前の、借りたり返したり学習したり、ちょっとくつろいだり、前に不登校の子どもに、死ぬんだしたら図書館に来なさいと話題になったが、そういうので良いと思う。だから残して欲しいと思う。唐木田図書館も決して蔵書は豊かではない。でも、地域にあるという事が色々な意味で大切だと思う。4つの図書館を廃止してはいけないと考える。

市民：非常によく出来ている資料だと思うが、担当の方々の思いというようなものがあまり伝わってこない。もっと熱を込めて伝える場にしても良いのではないか。私はこの唐木田図書館の存続がありきという事ではない。そうではなくてこれを廃止するのだったらどんなすばらしい魅力的な図書館をつくってくれるのかを聞きたい。この文教都市の多摩市に何で魅力的な、ほんとうに行きたいと思うような図書館がないんだろうと前から不満を持っていた。私はこの図書館つくったときに何でこんな中途半端なものを今になってつくるんだと思った。そうではなく、多摩市にはこんな立派な図書館があるんだというような、他からも行きたいなと思うような、そういうものをぜひつくるべきだと思う。あそこに行けば何でも調べられるよというものをつくってくれるんだろうな、ずっと期待していた。分散型は分散型の良さもあるでしょうし、価値を感じておられる方がいるのは良く分かる。長期的な視野とかこういうしっかりした計画の中で、これだけのものをつくって市民の人たちに説明しようとする中で、とにかく存続ありきで集まっている人がほとんど。でも私はそうではない。もっと立派な魅力的な中央図書館こそつくるべきだと。今のような分

散型だったらせいぜい市全体の蔵書のほんの一握りしか一箇所では見られない。それを中央に集めれば、同じテーマでも色々な角度から資料を見ることが出来る。私みたいにもっと立派な中央図書館をつくってほしいと言う人もきっといると思う。でもそういう専門の方は、そういう思いを持ってこういうものを作っていると思うが、それが全然伝わってこない。

市民：中央図書館をつくりたいということもすごく良いと思う。でも実際に、多摩市の方達がだんだんと高齢化している。夫も82才で、一ヶ月に20冊以上はこちらでリクエストして借りている。それももう本人が歩けなくなってきて、私がミニバスを利用して来ている。やっぱり地域に分散したこういう図書館をぜひそれぞれの地域にそのまま存続させて欲しい。

市民：この館の経過がわかったほうが良い。2013年の11月に「公共施設の見直し方針と行動プログラム」が出て、それでその中に4地域図書館の廃止があつて、廃止の対象になっている4図書館でそれぞれ住民運動が起きた。市議会にも陳情が出され、市長との懇談会もあり、市議会議員選挙の争点にもなり、市長がこの計画はたたき台ですということを議会で答弁されてここに至っている。ですから市の行動プログラムが逆に言えば教育委員会や図書館にボールが投げられていると思う。そのところでは、これだけの住民の意見を反映して、今度は市に対して、パブコメを取って、懇談会開いてみたが、存続して欲しいという意見が多かったと、市にボールを返して欲しい。いまそういう局面だと思う。読書活動振興のためには「だれもが使える図書館」、それがほんとに必要だというように、そういう意見としてこれを書き変えて、市に持って行ってほしい。このまま何も市民が言わなかったら、ずっと廃止されていたものが、ここまで延びてきている。それを本当に受け止めて欲しい。

館長：これだけのご意見をいただいて私一人で受け止めるというのは難しいと思う。教育委員会や市長部局とも共有を十分したいと思う。

市民：多摩市には公園がたくさんあるというのがすごく売りです。それからコミセンもたくさんある。この地域にある図書館というのは、中の市民に向けても外に向けてもこんなに良いところがありますよという売りの一つにするべき。簡単に廃止にするという意見が出てきてしまうことにとっても不思議な感覚を覚える。文化の拠点であり、子ども達を育てる場でありということ。最初は本が少なくて大丈夫なのかなと思ったが、だんだん本も増え、よく子どもの手を引いたお母さんが見えるし、年配の方もよく見えているし、一番忙しい中間の方はなかなか来られないかもしれないが。自分達は豊ヶ丘の図書館に通っていた。やっとここに出来たかという事で、それがもうなくなるという。ものすごくびっくりしている。出来たばかりでもうなくしてしまう、それって一体何を考えているのか。この地域に必要なだから出来たのではないかという意見あつたが、全くその通りだと思う。それ以外の地域館もそれぞれの地域ですごく大事な役割を果たしてきていると思う。多摩市は弱者に優しいと言葉でいくら言っても実際にやっていることはそういうことでは全然優しくない。実際にやっている事と、言っていることが一致するようにお願いしたい。

市民：「はじめに」のところで議会在が図書館運営を「現状を存続していくことはもはや不可能」とこの文章をここに使われていることに対して、私はそうではないと言いたいです。これは行動プログラムを出すその2年前に、一般的に公共施設はやはりちょっと縮小していかないと大変というそういう総論的な形での理解の報告を、いかにも4地域図書館は存続しますよという方針を受けて議会在がこんな発言をしたかのように、まさに作爲的なこれはぜひ削除していただきたい。今議会在では図書館に対してどうだったのか、やはり地域図書館存続を求める声がこの2年間大きく広がった。地域図書館存続を求める陳情に対しては採択、または趣旨採択、趣旨採択でも地域図書館は存続させることが前提の上での趣旨採択でした。館長の説明の中でも、市民運動があり市長部局の申し入れがあつてという言葉があつたが、文章の中には書かれていない。まさに廃止を前提とした文章の形となっているところに問題があると思う。

多摩市がいかに図書館運営で素晴らしい行動をしているかというのが良く分かる。そういう面から見た時

にこの活動をさらに振興する計画になっているのかと思った時に、これをもし3月までにまとめて決定したとしたら、多摩市の恥ではないかと思う。振興計画ではなく、削減計画。この地図、計画通りにやったらこんなに薄れてしまうと、自ら資料として示しているところにも問題がある。やはりこれまでやってきたのは地域図書館があったからこそその状況だと思う。その地域図書館の役割というのがここにあまり書かれていない。やはり身近で誰もが使えて、子ども達が来れて、地域に役立つ図書館、つながる図書館、どれも地域図書館なくしては出来ない事ではないか。市民の運動の中で図書館を存続して欲しいという署名1万5千集まって、大きな運動になった。市長もこのプログラムはたたき台であって、最終的には見直しますと、地域図書館存続の方向で議会でもいろいろ論議される中で、見直しますというふうに議会ではっきり市長も教育委員会も答えている。まず見直しを進めた上で改めてこの推進計画を作るべきではないか。

市民：今の指摘はその通りか。「現状を存続していくことはもはや不可能である」と。この部分は事業評価書の中にあるのか。

館長：あります。

市民：そのことを市長が、見直すということを明言しているということは事実なのか。

館長：先程のは議会で答弁をしているということか。

市民：そう。行動プログラムを見直すと共に地域図書館をめぐっての論議の中で、教育委員会も含めてこの地域図書館については、廃止という事については見直しをしますと。本会議です。

市民：市長がそのように答弁したことが事実であるならば、これを前提とした会を持つ事自体がおかしな話になる。

館長：申し訳ないが、手元に議事録で確認できるものがないので確認させていただきたい。

市民：図書館館長として、図書館の運営のやり方を含めて見直しますと議会ではっきりと本会議の中で教育長も言っていることについてご存じないのか。行動プログラムも、図書館運営についても。

館長：図書館運営については、読書活動振興計画を通じて見直しをしていくということはお答えしていると思う。

市民：7館構想をなくすということに対して、市民から様々な陳情が出て、そのやり取りの中でこの図書館の運営については見直すと言っている。

館長：記憶だけでこの場で曖昧なお答えをするのはあまりしないほうが良い。

市民：41ページに、「公共施設の見直し方針と行動プログラムの中に本計画の方向性を反映していきます」とある。この計画を最初は決定と言っていたのが、このように見直しの方向に大きく状況が変化してきている。その変化してきている中だからこそ図書館問題を今の状況のままで論じるのは、今後も大きく影響しかねない。だからこれを3月にまとめるというのは時期尚早ではないかと、私は思う。

市民：先程これは素晴らしい経過報告だと言った方がいた。これ民間の企業だと全然通用しない。これは羅列になっている。例えば現在の課題とっていくつか課題がただ羅列してあるだけ。どれが重要でどれに優先順位があるか全く分析していない。それをきちんと分析していただきたい。もう一つは、それに対する対応策が、例えばこの課題を解決するためにはこういう案もある、こういう案もあると複数の案をぜひ比較検討していただきたい。その中に、現状の条件下でこの案が一番良いとか、例えば違うところが出来て経費が安くなったから前ダメだった案ができるかもしれないとか、そういう相対的な優先順位をつけた分析を全部計画書に載せる。羅列して地域館を縮小して拠点館を残しますという、それだけの話。例えば全部並列にした時はどういう条件下で出来るか出来ないか、あるいはもう一館増やさなきゃいけないって言う人もいるかもしれないし、あるいは中央図書館一個つくれば後は全部つぶしてしまえば良いという案もできるかもしれない。そういう時にその案にどういうメリットがあってどういう益があるかっていう分析が全くなされていない。そういう複数の相対的な評価を盛り込んだ報告、計画を立てていただきたい。

市民：子どもの、0歳から3ヶ月から6ヶ月での保健所での健康診断の時に、えほんかたりかけボランティアを

やっている。子どもを産んだお母さんは絵本をその時にもらって、絵本がいかにか大事かという事をお話をして、帰られましたら近くにある図書館に行って絵本を手にとって見てくださいますと。そして子ども達にぜひ絵本を読んであげてくださいと。そういうお話をしながら絵本をプレゼントしているボランティアです。そういうお母さん達は一箇所しかない大きな立派な図書館があったとしても多分行けません。それにはやはりあちらこちらにあるのが良いと思う。

もうひとつ、ここに子どもへのサービスの充実と書いてある。インターネットで調べたり、紙でないそういうもので読んでしまうと消えてしまう。だけど本になっていけば残る。やはり本の中に文章として残って紙で残っていくものがあるのが必要ではないかと思っている。本を買わないで図書館で読みたいという年齢になってきた。やっぱり遠くに行くよりも近くにあったほうが良いなという思いはずっとある。そういうところから素朴に、あちらこちらに図書館があってほしいという気持ちで来ました。

市民：今日のお話を聞いていると、この図書館を継続してほしいというのが圧倒的に強い意見。このことを記録されて、それを上層部にきちっと伝えて欲しい。この計画についてはソフト面については私は最初評価した。ハード面は全く0点です。ソフトが100点でも、0点ですから。

市民：この菖蒲館を運営する市の予算は、市の専属のスタッフを入れて、約1,500万くらいと聞いている。それに対し、4,000万かかっているという。例えば存続するために、具体的な例として例えば2,000万だったら存続しますよとか、そういう提案を先程から求めた。極端な話他の図書館つぶしても良いですけどここだけは残してください。ヨーロッパとかそういう所は、民間でほとんど地元の人達がボランティアで運営している。それがどうして日本でできないのか。2,000万だったらできますよ、じゃああなた達はこういう仕事しなさい、というようなクリエイティブな提案をぜひしてもらいたい。で将来ここで育った人達はよそに行った場合にはふるさと納税して、市を潤してくださいとか、色んな形の展開が出来ると思う。

市民：多摩の図書館はこんなに利用があるんだみたいな事がまとめられてあるが、こういう総論は総論で良いが、次回は どうして4館をなくすのか、具体的な形で数字として、予算は今いくらでいくら足りないとか、予算上どうなのかとか具体的な形として提示し、残すためにはどうすれば良いのかというのを、こういう方法がありますよと示してほしい。先程意見があったように、中央図書館だけを残すとすればこういうメリットがあるとか、数字として出して欲しい。そうすると、時間短縮の問題だとか休日、休館日をちょっと増やすとか討論できる。あるいは民間委託の問題だとか、図書館の人とは別に半分は運営委員でボランティアみたいな形でやればコストは下がるとか、色々な方法があると思う。各地域で出た案を元にして出して、それでそれをまとめて再提案して欲しい。今度は意見を土台として、残すためにはどうしたら良いか、あるいはどうしても残せないというのであればそういうものも含めて出して欲しい。

市民：前任者にメールを入れたことがある。ここの業務委託が9名で4,065万。ところが同じ利用者数の東寺方が1,000万強で4名で運営できる。こういう事を全然比較しないで単純にもうなくしたいという。こういう短絡的な発想をなぜするのか。誰がこんな事の全体の話をしているのか。場所を減らして振興できるのか。こんなもの何でやらないといけないのか。もう少し真面目に提案してほしい。あなたたちは消すという話しか思考回路の中に出てこない。4,000万かかっているってどうなっているんだと言った時に、市の職員を入れて安くなる計画があるかもしれない、それをやろうとも思っているという案をちらっと言った。ここには何も入っていない。残すにはどうするんだという話は何もない。公的な人で税金で雇われているはずなのだけれども、まるで市民のためにならないことを一生懸命やっている。私あなたたちに税金払いたくない。もっとしっかりどうするんだということを出して欲しい。

印刷物番号

28-10

多摩市読書活動振興計画 別冊

パブリックコメント等の記録

平成28年5月発行

編集・発行 多摩市教育委員会

教育部 図書館

〒206-0033

多摩市落合二丁目29番地

電話 042-373-7955